

授業科目名：スポーツ・ フィットネス実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>運動は身体・精神の両面から健康と体力の保持増進において重要な役割を持つことから、運動を年齢問わず生涯にわたって趣味や生きがいとして親しもうとする姿勢が豊かなライフスタイルの実現において重要となる。本授業では、各スポーツ・フィットネス種目の実践を通じて、以下に挙げるような運動に対する素養を高め、自身と運動との関わり方について体験的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種目のルールや特性（楽しさ）への理解</li> <li>・ 基本的な技術の習得や技能の向上</li> <li>・ 実践するにあたっての安全面に対する配慮</li> <li>・ 仲間とのプレーによる人間関係の構築などの副次的効果</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>各種目のルール、特性を理解し、各種運動における基本動作を身につけ、安全に配慮しつつ、ゲーム、各種プログラム、実演などを通して、運動を楽しむ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目標・内容・成績評価方法などについての説明）</p> <p>第 2 回：運動の基礎と応用 1 「バスケットボールの競技特性やルールについて」</p> <p>第 3 回：運動の基礎と応用 2 「バスケットボールに必要な運動・技術の基礎について」</p> <p>第 4 回：運動の基礎と応用 3 「スキルテストの実施、基礎的スキルの練習」</p> <p>第 5 回：運動の基礎と応用 4 「個人技能（ドリブル、パス、シュート）の練習法」</p> <p>第 6 回：運動の基礎と応用 5 「1対1のオフense、ディフェンスの構造について」</p> <p>第 7 回：運動の基礎と応用 6 「3人制（3x3）競技の特性および実践」</p> <p>第 8 回：運動の基礎と応用 7 「2対2、3対3、スペーシングの考え方」</p> <p>第 9 回：運動の基礎と応用 8 「チームオフense・ディフェンスの構造について」</p> <p>第 10 回：運動の基礎と応用 9 「ゲームに向けた戦術の理解、リーグ戦の実施と運営法について」</p> <p>第 11 回：運動の基礎と応用 10 「リーグ戦の実施と運営、審判法」</p> <p>第 12 回：運動の基礎と応用 11 「リーグ戦の実施と運営、スカウティングデータの活用」</p> <p>第 13 回：運動の基礎と応用 12 「リーグ戦の実施と運営、フェアプレーについて」</p>			

第 1 4 回：運動の基礎と応用 1 3 「スキルテストの実施、分析」、まとめ
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 日本スポーツ協会の資料 など
学生に対する評価 平常点（受講態度・意欲等）：80% 実技点（プレーへの理解度・技能表現力・上達度等）：20%

授業科目名：スポーツ・ フィットネス実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：  担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>運動は身体・精神の両面から健康と体力の保持増進において重要な役割を持つことから、運動を年齢問わず生涯にわたって趣味や生きがいとして親しもうとする姿勢が豊かなライフスタイルの実現において重要となる。本授業では、各スポーツ・フィットネス種目の実践を通じて、以下に挙げるような運動に対する素養を高め、自身と運動との関わり方について体験的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種目のルールや特性（楽しさ）への理解</li> <li>・ 基本的な技術の習得や技能の向上</li> <li>・ 実践するにあたっての安全面に対する配慮</li> <li>・ 仲間とのプレーによる人間関係の構築などの副次的効果</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>各種目のルール、特性を理解し、各種運動における基本動作を身につけ、安全に配慮しつつ、ゲーム、各種プログラム、実演などを通して、運動を楽しむ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目標・内容・成績評価方法などについての説明）</p> <p>第 2 回：運動の基礎と応用 1 「ボールヒッティング」</p> <p>第 3 回：運動の基礎と応用 2 「スパイクの実践」</p> <p>第 4 回：運動の基礎と応用 3 「パス技術の実践」</p> <p>第 5 回：運動の基礎と応用 4 「関係プレーの実践&amp;チームワーク作り」</p> <p>第 6 回：運動の基礎と応用 5 「ゲームの実践」</p> <p>第 7 回：運動の基礎と応用 6 「リーグ戦①の実施 基礎技術を使ってゲームを楽しむ」</p> <p>第 8 回：運動の基礎と応用 7 「リーグ戦①の実施 互いの特徴を知り関係プレーの構築を図る」</p> <p>第 9 回：運動の基礎と応用 8 「リーグ戦①の実施 チームワークの構築」</p> <p>第 10 回：運動の基礎と応用 9 「リーグ戦①の実施 チームを完成させてプレーを実践する」</p> <p>第 11 回：運動の基礎と応用 10 「リーグ戦②の実施 新しいチームでの組織化」</p> <p>第 12 回：運動の基礎と応用 11 「リーグ戦②の実施 互いの特徴を把握して関係プレーを構築する」</p> <p>第 13 回：運動の基礎と応用 12 「リーグ戦②の実施 チームワークを高めより高度なプレーに</p>			

挑戦する」

第 1 4 回：運動の基礎と応用 1 3 「リーグ戦②の実施 組織化されたチーム力を全文に発揮したゲームを作る」、まとめ

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

日本スポーツ協会の資料 など

学生に対する評価

平常点（受講態度・意欲等）：80%

実技点（プレーへの理解度・技能表現力・上達度等）：20%

授業科目名：スポーツ・ フィットネス実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>運動は身体・精神の両面から健康と体力の保持増進において重要な役割を持つことから、運動を年齢問わず生涯にわたって趣味や生きがいとして親しもうとする姿勢が豊かなライフスタイルの実現において重要となる。本授業では、各スポーツ・フィットネス種目の実践を通じて、以下に挙げるような運動に対する素養を高め、自身と運動との関わり方について体験的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種目のルールや特性（楽しさ）への理解</li> <li>・ 基本的な技術の習得や技能の向上</li> <li>・ 実践するにあたっての安全面に対する配慮</li> <li>・ 仲間とのプレーによる人間関係の構築などの副次的効果</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>各種目のルール、特性を理解し、各種運動における基本動作を身につけ、安全に配慮しつつ、ゲーム、各種プログラム、実演などを通して、運動を楽しむ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目標・内容・成績評価方法などについての説明）</p> <p>第 2 回：運動の基礎と応用 1 「ボールコントロール（キック）」</p> <p>第 3 回：運動の基礎と応用 2 「ボールコントロール（ドリブル）」</p> <p>第 4 回：運動の基礎と応用 3 「ボールキープ」</p> <p>第 5 回：運動の基礎と応用 4 「パスゲーム」</p> <p>第 6 回：運動の基礎と応用 5 「3対3のスマールゲーム」</p> <p>第 7 回：運動の基礎と応用 6 「ルールの理解と試しのゲーム」</p> <p>第 8 回：運動の基礎と応用 7 「システムとポジション」</p> <p>第 9 回：運動の基礎と応用 8 「リスタートの方法」</p> <p>第 10 回：運動の基礎と応用 9 「スペースメイキング」</p> <p>第 11 回：運動の基礎と応用 10 「シュート」</p> <p>第 12 回：運動の基礎と応用 11 「ディフェンス戦術」</p> <p>第 13 回：運動の基礎と応用 12 「オフense戦術」</p> <p>第 14 回：運動の基礎と応用 13 「リーグ運営の仕方」、まとめ</p>			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

日本スポーツ協会の資料 など

学生に対する評価

平常点（受講態度・意欲等）：80%

実技点（プレーへの理解度・技能表現力・上達度等）：20%

授業科目名：スポーツ・ フィットネス実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>運動は身体・精神の両面から健康と体力の保持増進において重要な役割を持つことから、運動を年齢問わず生涯にわたって趣味や生きがいとして親しもうとする姿勢が豊かなライフスタイルの実現において重要となる。本授業では、各スポーツ・フィットネス種目の実践を通じて、以下に挙げるような運動に対する素養を高め、自身と運動との関わり方について体験的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目のルールや特性（楽しさ）への理解</li> <li>・基本的な技術の習得や技能の向上</li> <li>・実践するにあたっての安全面に対する配慮</li> <li>・仲間とのプレーによる人間関係の構築などの副次的効果</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>各種目のルール、特性を理解し、各種運動における基本動作を身につけ、安全に配慮しつつ、ゲーム、各種プログラム、実演などを通して、運動を楽しむ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目標・内容・成績評価方法などについての説明）</p> <p>第 2 回：運動の基礎と応用 1 「バランス崩しゲーム～対人やグループでのゲーム～」</p> <p>第 3 回：運動の基礎と応用 2 「柔道場でできる体づくりの動きやゲーム」</p> <p>第 4 回：運動の基礎と応用 3 「転んでも怪我をしない身のこなし方（受身：後受身）」</p> <p>第 5 回：運動の基礎と応用 4 「転んでも怪我をしない身のこなし方（受身：横受身）」</p> <p>第 6 回：運動の基礎と応用 5 「転んでも怪我をしない身のこなし方（受身：前回り受身）」</p> <p>第 7 回：運動の基礎と応用 6 「体さばき（柔道における身体動作）、体さばきを使ったゲーム」</p> <p>第 8 回：運動の基礎と応用 7 「人を転がす、投げる」</p> <p>第 9 回：運動の基礎と応用 8 「人を抑える、抑えられたところから逃げる」</p> <p>第 10 回：運動の基礎と応用 9 「人の関節を極める」</p> <p>第 11 回：運動の基礎と応用 10 「つかまれたときの逃げ方」</p> <p>第 12 回：運動の基礎と応用 11 「柔道の形（講道館護身術～組みつかれた場合～）」</p> <p>第 13 回：運動の基礎と応用 12 「柔道の形（講道館護身術～離れた場合～）」</p> <p>第 14 回：運動の基礎と応用 13 「柔道の形（講道館護身術～武器の部～）」、まとめ</p>			

テキスト 特になし
参考書・参考資料等 日本スポーツ協会の資料 など
学生に対する評価 平常点（受講態度・意欲等）：80% 実技点（プレーへの理解度・技能表現力・上達度等）：20%



授業科目名：ウェルネス 概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：  担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自らの身体の機能や働き、および身体活動が健康におよぼす影響に関する理解を深めることを通して、人生の質を高めるための基礎知識を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>身体運動科学を構成する多分野の基礎的知識を学び、健康の保持増進や競技力の向上などに触れつつ、生涯にわたるウェルネスに関する講義を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：授業内容の説明、受講上の留意点および評価法の理解</p> <p>第 2 回：健康概説 健康とは</p> <p>第 3 回：身体運動の科学① トレーニングによる身体適応</p> <p>第 4 回：身体運動の科学② データの活用</p> <p>第 5 回：身体運動の科学③ 筋骨格系</p> <p>第 6 回：身体運動の科学④ 運動栄養学</p> <p>第 7 回：運動と健康① スポーツ医学</p> <p>第 8 回：運動と健康② 発育発達の観点から考える</p> <p>第 9 回：運動と健康③ 運動処方</p> <p>第 10 回：運動と健康④ ストレッチングの科学</p> <p>第 11 回：様々な対象と運動、健康① 運動と睡眠</p> <p>第 12 回：様々な対象と運動、健康② 老化に伴う身体機能の変化</p> <p>第 13 回：人生の質的向上① スポーツとストレス</p> <p>第 14 回：人生の質的向上② 生活習慣病とライフスタイル</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>日本スポーツ協会の資料</p> <p>文部科学省の健康教育関連資料 など</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

授業内課題 45%

最終レポート課題 55%

- ・ 授業内課題は、毎回の講義内容に対する理解度を評価する。
- ・ 最終レポート課題は、授業内容の理解度ならびそれを実践するためのアイデアを総合的に評価する。

授業科目名：英語コミュニケーションA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：  担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語圏文化に関する知識を身につけながら、大学生に必要とされるスタディ・スキルとして、英語の「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表・やりとり）」「書くこと」の技能を向上することをねらいとする。本授業科目では、特に「聞くこと」「話すこと（発表・やりとり）」の技能を中心的に鍛えることによって、国際共通語として使用されている英語を扱ったニュースや映像などの内容を理解し、それについて意見を述べ合うことができるようになることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ネット上のニュースソース、映画やテレビ・ラジオ番組、動画、新聞・雑誌記事など、日常生活の中で出会う様々な素材について、英語で理解し、話し合い、発信する。リスニング力・スピーキング力を向上させるために、ディクテーションや英語の語順に沿った聴解訓練、発音練習、ディスカッション、プレゼンテーションなどの活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：本授業のガイダンス  第 2 回：さまざまな英語素材  第 3 回：リスニング・スキル（1）概要を捉える聞き方・読み方  第 4 回：リスニング・スキル（2）要点を捉える聞き方・読み方  第 5 回：リスニング・スキル（3）詳細を捉える聞き方・読み方  第 6 回：リスニング・スキル（4）英語の語順に沿った聞き方  第 7 回：さまざまな音読練習法とシャドーイング  第 8 回：英語らしい発音（1）日本語にない音素、  第 9 回：英語らしい発音（2）英語特有のリズム・イントネーション  第 10 回：スピーキング・スキル（1）リテリング  第 11 回：スピーキング・スキル（2）チャット、スモール・トーク  第 12 回：スピーキング・スキル（3）ディスカッション  第 13 回：スピーキング・スキル（4）プレゼンテーション  第 14 回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>オンライン記事・映像などさまざまなジャンルや話題の素材を使用する。</p>			

**参考書・参考資料等**

Practical English Usage 4th Edition, Michael Swan, Oxford University Press.

NHK 「ニュースで学ぶ現代英語」

<https://www2.nhk.or.jp/gogaku/gendaieigo/>

Voice of America

<https://www.voanews.com/>

BBC Learning English

<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>

TED Talks

<https://www.ted.com/talks?language=ja>

**学生に対する評価**

授業への積極的な参加・発言（50%）、語彙の小テストや課題等の成績（50%）を総合して評価する。

授業科目名：英語コミュニケーションB	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：  担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語圏文化に関する知識を身につけながら、大学生に必要とされるスタディ・スキルとして、英語の「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表・やりとり）」「書くこと」の技能を向上することをねらいとする。本授業科目では、特に「読むこと」「書くこと」の技能を中心的に鍛えることによって、さまざまなジャンルや話題の英語を読んで理解し、その要約を書いたり、内容に関する意見を書いて表現できるようになることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ネット上のニュースソース、映画やテレビ・ラジオ番組、動画、新聞・雑誌記事など、日常生活の中で出会う様々な素材について、英語で理解し、話し合い、発信する。リーディング力・ライティング力を向上させるために、速読や英語の語順に沿った読解訓練、エッセイライティングなどの活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：本授業のガイダンス</p> <p>第 2 回：さまざまな英語素材</p> <p>第 3 回：リーディング・スキル（1）概要を捉える読み方・聞き方</p> <p>第 4 回：リーディング・スキル（2）要点を捉える読み方・聞き方</p> <p>第 5 回：リーディング・スキル（3）詳細を捉える読み方・聞き方</p> <p>第 6 回：リーディング・スキル（4）英語の語順に沿った読み方</p> <p>第 7 回：リーディング・スキル（5）速読</p> <p>第 8 回：リーディング・スキル（6）グラフや図表を活用した読み方</p> <p>第 9 回：ライティング・スキル（1）サマリー・ライティング</p> <p>第 10 回：ライティング・スキル（2）パラグラフ・ライティングの基礎・基本</p> <p>第 11 回：ライティング・スキル（3）短めの長さのパラグラフ・ライティング</p> <p>第 12 回：ライティング・スキル（4）中程度の長さのパラグラフ・ライティング</p> <p>第 13 回：ライティング・スキル（5）ライティングのよくある間違い</p> <p>第 14 回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>オンライン記事・映像などさまざまなジャンルや話題の素材を使用する。</p>			

**参考書・参考資料等**

Practical English Usage 4th Edition, Michael Swan, Oxford University Press.

NHK 「ニュースで学ぶ現代英語」

<https://www2.nhk.or.jp/gogaku/gendaieigo/>

Voice of America

<https://www.voanews.com/>

BBC Learning English

<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>

TED Talks

<https://www.ted.com/talks?language=ja>

**学生に対する評価**

授業への積極的な参加・発言（50%）、語彙の小テストや課題等の成績（50%）を総合して評価する。

授業科目名： AI時代の情報	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報化社会における技術の発展やそれに伴う社会の変化に対し、主体的に対応できる能力と態度を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員および教育支援者として、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用しながら問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な知識と技術を身に付ける。</li> <li>・ 現代社会におけるデータサイエンス・AIの役割を理解し、情報技術を利用して初歩的なデータ分析ができるようになる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業科目は教育職員免許法上の必修科目「情報機器の操作」に対応し、教員および教育支援者として必要な情報機器の操作を題材とした実習を含んだ授業形態をとる。ただし、ワードプロセッサや表計算等のアプリケーションソフトウェアの具体的な使用方法を教授する授業ではなく、情報科学や情報技術にまつわる概念や原理を説明し、それらを履修者が深く理解したり適切かつ効果的に活用したりすることができるようになるための実習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、資源と認証</p> <p>第2回：インターネットの利用とセキュリティの基本</p> <p>第3回：コンピューターの仕組み</p> <p>第4回：コンピューターネットワークの仕組み</p>			

第5回：クラウドの利用（1）：Microsoft Office 365の利用

第6回：クラウドの利用（2）：Microsoft Teamsやその他のサービス

第7回：情報と社会

第8回：数と文字の表現

第9回：音・画像・映像の表現

第10回：プログラミング

第11回：データ分析（1）：データ分析とICT

第12回：データ分析（2）：データの視覚化

第13回：現代社会におけるデータサイエンス・AIの役割

第14回：まとめ

テキスト

授業時間中に指示する。

参考書・参考資料等

授業時間中に指示する。

学生に対する評価

授業回毎に課すミニレポートおよびコメントシート(70%), および学期末に課す課題に対する成果物(30%)により総合的に評価します。



授業科目名： 教育の理念と歴史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古屋恵太、遠座知恵、岩田 康之
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、教育事象を理解するための基礎となる力を育むことをねらいとする。受講生が教育に関する基礎的概念を身に付けるとともに、教育の歴史と思想を学ぶことで、教育事象について多角的に理解するための基礎的知識を身に付けることを到達目標とする。教育の多様な理念は、現実の教育の歴史や思想とどのように結び付いていたのかを考察することが、毎回の授業を貫くテーマとなる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず、教育や学習などの基礎的概念が説明され、教育の本質と目的を説明する諸観点が提示される。その上で、家族、子供、学校、社会、国家との関わりで、欧米における教育の歴史、子供に関する思想や、子供の教育と学習を構成する思想について解説が行われる。また、日本における教育の歴史が説明され、その文脈で現代の教育改革の特徴が示される。さらに、現代において生じている近代教育に対する批判が紹介され、現代教育の諸課題が浮き彫りとされる。毎回の授業では、受講生相互の教え合いやディスカッションが適宜行われ、受講生の授業参加と授業理解を深めることが目指される。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の本質と目的—教育の基礎的概念  第2回：古代・中世における教育と学校—真理の獲得と教養の意義  第3回：近代公教育の成立—自由・平等の思想とその歴史的背景  第4回：教育の公共性—家族、子供、学校、社会、国家の関わり  第5回：子供の思想—前近代から近代、現代の子供観まで  第6回：子供の成熟—発達、変容に関する考え方  第7回：子供と教材・教具—教育のメディア・表象と具体的実践  第8回：子供（児童）中心主義の学校改革—生活経験に基づく教育  第9回：近世日本における教育と学校—家と共同体のもとでの教育  第10回：日本における近代公教育の成立—学制以降の教育政策とその思想  第11回：大正新教育の思想と国家主義の教育—個性と協同（働）の思想と実践  第12回：戦後以降の教育改革の歴史—経験主義、系統主義から現代まで  第13回：近代教育に対する批判—教育における自由と平等の問い直し  第14回：本授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>古屋恵太編『教育の哲学・歴史』学文社、2017年。</p>			

参考書・参考資料等

授業中に適宜、紹介する。

学生に対する評価

授業中外で課す小レポートの記載内容（20%）や、ディスカッション等での授業への参加の度合い（30%）、定期試験（50%）を勘案して総合的に評価する。

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 大村龍太郎、林 尚示、山田雅彦、伊藤秀樹、遠座知恵、腰越滋、末松裕基、高橋純、古屋恵太、上杉嘉見、金子真理子、下田誠、櫻井眞治、宮内卓也、見世千賀子、大森直樹 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教師とは何か、教職とは何かについて理解し、今日における教職やそれを担う教師の重要性について学びを深めるための課題意識と心構えを準備する。			
授業の概要 教職の意義、教師の役割・職務内容等、教職の基礎・基本について学ぶ。また、教師に求められる資質・能力について学習し、教職への適性や専門職としての成長の在り方を考えていく。受講者各自が考察した内容について「教職入門の記録」にまとめ、授業内、授業終了後の振り返りに活用する。			
授業計画 第1回：教師像の歴史的展開 第2回：現代における教職の社会的意義 第3回：現代における教職への期待と専門職としての課題 第4回：教師のサービスと法的地位 第5回：学び続ける専門職の意義と在り方 第6回：学校内外における多様な職種や専門家との連携・協働（チーム学校の課題） 第7回：教師の仕事の特徴と教職のやりがい 第8回：教師の職能成長の意義と課題 第9回：教師に求められる資質・能力 第10回：教師の職務内容の全体像 第11回：教師の職務内容の具体例（学習指導を中心に） 第12回：教師の職務内容の具体例（生徒指導・生活指導を中心に） 第13回：校内における組織的対応（チーム学校の実態） 第14回：教職の意義、教師の役割・職務内容についての振り返り			
テキスト 佐々木幸寿編『教職総論 改訂版』学文社、2020年。もしくは別途指示したもの。			
参考書・参考資料等			

適宜、紹介する。

学生に対する評価

授業中外で課す小レポートの記載内容(20%)や、グループワーク等での授業への参加の度合い(30%)、最終レポート(「教職入門の記録」)(50%)を勘案して総合的に評価する。

授業科目名： 教育組織論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐々木 幸寿、前原 健二、 腰越 滋、福本みちよ
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との 連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標： 教育と社会の関係，学校制度，および学校の組織と経営など，教 育の仕組みについて基礎的な知識を習得する。			
授業の概要： 日本の社会と学校，教育政策と教育行政，教育機会と学校制度，カリキュラム， 学校組織と学校経営，子どもをめぐる学校・地域・家族の関わり，教師の地位と役割，教育改 革と学校のあり方などについて講述し，教員になるための資質を高める。			
授業計画			
第1回：日本の社会と学校 概論的に学校を巡る状況変化、子供の変化と指導上の課題、諸外国の改革 動向に説明（冒頭にて「教育組織論とは」のオリエンテーションを実施）			
第2回：教育政策と教育行政 1 主に公教育の原理及び理念、公教育制度を構成する教育関係 法規			
第3回：教育政策と教育行政 2 主に教育行政の理念と仕組み、教育制度を巡る諸課題			
第4回：教育機会と学校制度 1 主に学校を巡る状況変化、子どもの変化と指導上の課題			
第5回：教育機会と学校制度 2 主に子どもの変化と指導上の課題、教育政策の動向			
第6回：カリキュラム 主に教育政策動向と諸外国の改革動向、教育制度を支える行政の仕組み、教育 制度の諸課題			
第7回：学校組織と学校経営 1 主に学校経営、教育活動、学校評価			
第8回：学校組織と学校経営 2 主に学校経営の仕組み、教職員およびステークホルダーとの連携・協 働			
第9回：生徒文化 子どもの変化と指導上の課題、地域と連携した学校教育活動、開かれた学校づくり			
第10回：子ども・地域・家庭 1 主に地域と連携した学校教育活動、開かれた学校づくり			
第11回：子ども・地域・家庭 2 主に学校での危機管理および事故対応、学校を巡る安全上の課題			
第12回：教師の地位と役割 1 教師の地位と役割をキーワードに、学校経営、教育活動、学校評価の あり方を考える			
第13回：教師の地位と役割 2 教師の地位と役割をキーワードに、学校経営の仕組みや教職員および ステークホルダーとの連携・協働について考える			
第14回：これからの学校と社会 まとめとして、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営の変 化に再言及し、地域との連携と学校安全の遵守についても概括する。			

定期試験：

テキスト：

佐々木幸寿「学校法」第2版、学文社、2020年。

参考書・参考資料等：

- ① 佐々木 幸寿 「改正教育基本法 制定過程と政府解釈の論点」日本文教出版、2009年
- ② 高見 茂 監修 「必携教職六法」協同出版、2022年度版

学生に対する評価： 受講姿勢(出席状況等)40%、レポート30%、期末試験得点30%を総合して判定する。

授業科目名：教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：犬塚美輪，品田 瑞穂，杉森伸吉，関口貴裕、 太田絵梨子、高橋(越野)麻衣子 、押尾 恵吾 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するために、発達概念と理論、記憶・認知・言語・運動・社会性の発達などのトピックについて 主に講義形式で学習する。また、幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解するために、動機づけ、学習理論、集団づくり、学習評価、学習指導、授業づくりなどのトピックを講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本授業の目的と方法—教職課程における本授業の位置付け</p> <p>第2回：発達概念と理論</p> <p>第3回：記憶とその発達</p> <p>第4回：認知発達</p> <p>第5回：言語発達</p> <p>第6回：運動発達</p> <p>第7回：社会性の発達</p> <p>第8回：動機づけ</p> <p>第9回：学習理論</p> <p>第10回：学習の形態と概念</p> <p>第11回：集団づくり</p> <p>第12回：学習評価</p> <p>第13回：学習指導</p> <p>第14回：授業のまとめと期末試験及び試験の解説</p>			
テキスト			

授業時間中に適宜指示する
参考書・参考資料等 授業時間中に適宜指示する
学生に対する評価 期末試験（50%），毎回の授業後に提出するコメントペーパー・小テストなど（50%）



授業科目名：特別支援 教育の理解	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池田吉史・村尾愛美・内海友 加利・田中美歩・松本幸代・ 小林巖・橋本創一
			担当形態： クラス分け：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 特別な教育的ニーズのある児童生徒の基本的事柄について説明できる。 2) 特別な教育的ニーズのある児童生徒への教育課程や支援の実際について説明できる。			
授業の概要			
通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な教育的ニーズにより、特別の支援を必要とする児童生徒について、各障害の特性と支援の実際を中心として見ていく。更に、通常の学校における特別支援教育の制度・教育課程の基礎的事柄についても扱う。			
授業計画			
第1回：教職課程における本講義の位置づけ, 特別支援教育に関する制度と理念1 通級指導教室と「自立活動」の位置づけ			
第2回：特別支援教育に関する制度と理念2 インクルーシブ教育システムの構築と教員の役割			
第3回：特別支援教育に関する制度と理念3 個別の教育支援計画と指導計画			
第4回：障害の特性と発達の理解1 視覚障害の理解と支援			
第5回：障害の特性と発達の理解2 聴覚障害の理解と支援			
第6回：障害の特性と発達の理解3 知的障害の理解と支援			
第7回：障害の特性と発達の理解4 肢体不自由の理解と支援			
第8回：障害の特性と発達の理解5 病弱の理解と支援			
第9回：障害の特性と発達の理解6 言語障害の理解と支援			
第10回：障害の特性と発達の理解7 自閉症スペクトラム障害の理解と支援			
第11回：障害の特性と発達の理解8 注意欠如多動性障害の理解と支援			
第12回：障害の特性と発達の理解9 学習障害の理解と支援			
第13回：日本語を母語としない児童生徒の理解と支援			
第14回：子どもの貧困・不登校の理解と支援			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

特別支援教育のための障害理解（金子書房）

学生に対する評価

講義内で適宜、提示する小課題（50%）及び、最終レポート（50%）による評価を行う。

授業科目名：特別な教育的ニーズの理解と支援	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 正吾
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 特別な教育的ニーズのある児童生徒の特徴と支援の実際について説明できる。</p> <p>2) 特別な教育的ニーズのある児童生徒への教育課程やインクルーシブ教育システムの理念と特色について説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な教育的ニーズにより、特別の支援を必要とする児童生徒について、専門的知識を踏まえ、各障害特性に応じた理解と支援の実際を、より具体的に見ていく。更に、通常の学校における特別支援教育の制度・教育課程の実際についても、具体的かつ発展的内容を扱う。講義内で適宜、受講者によるグループワークを行い、特別な教育的ニーズのある児童生徒への理解と支援についての、より専門的な知識を得ることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教職課程における本講義の位置づけ 特別支援教育に関する制度の実際1 通級指導教室と「自立活動」の位置づけ、特別支援学校のセンター的機能</p> <p>第2回：特別支援教育に関する制度の実際2 インクルーシブ教育システムの構築と教員・特別支援教育コーディネーターの役割</p> <p>第3回：特別支援教育に関する制度の実際3 個別の教育支援計画と指導計画の作成と評価</p> <p>第4回：障害特性に応じた理解と支援の実際1 視覚障害の評価と支援</p> <p>第5回：障害特性に応じた理解と支援の実際2 聴覚障害の評価と支援</p> <p>第6回：障害特性に応じた理解と支援の実際3 知的障害の評価と支援</p> <p>第7回：障害特性に応じた理解と支援の実際4 肢体不自由の評価と支援</p> <p>第8回：障害特性に応じた理解と支援の実際5 病弱の評価と支援</p> <p>第9回：障害特性に応じた理解と支援の実際6 言語障害の評価と支援</p> <p>第10回：障害特性に応じた理解と支援の実際7 自閉症スペクトラム障害の評価と支援</p> <p>第11回：障害特性に応じた理解と支援の実際8 注意欠如多動性障害の評価と支援</p> <p>第12回：障害特性に応じた理解と支援の実際9 学習障害の評価と支援</p> <p>第13回：日本語を母語としない児童生徒の理解と支援の実際</p> <p>第14回：子どもの貧困・不登校の理解と支援の実際</p>			

テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 特別支援教育のための障害理解（金子書房）
学生に対する評価 講義内で適宜、提示する小課題（50%）及び、最終レポート(50%)による評価を行う。

授業科目名：保育・幼児教育課程総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平野麻衣子 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標          幼児教育・保育におけるカリキュラムの構造と編成、および保育環境の構成について学習する。保育の計画、実践、省察・評価、改善の過程を捉え、保育を構想・デザインする基礎的な力の育成を目標とする。</p>			
<p>授業の概要          「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された幼児教育・保育における計画の意義、教育課程・保育計画と指導計画作成の構想と視点について理解する。指導計画作成の実際として、子どもの遊びや生活の姿と関連付けながら指導計画の編成・作成・評価の方法、環境構成のあり方を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育の営みと計画          第2回：保育カリキュラムの構造          第3回：保育における計画の意義          第4回：子どもの遊びや生活と指導計画          第5回：3歳児一年間の遊びと生活          第6回：4歳児一年間の遊びと生活          第7回：5歳児一年間の遊びと生活          第8回：活動デザインと視点          第9回：子ども理解とねらい・内容          第10回：環境構成の視点          第11回：保育者の援助と省察          第12回：指導計画作成の手順と配慮点          第13回：指導計画の作成・実践・評価・改善の過程 -カリキュラム・マネジメント-          第14回：保育の記録と評価</p> <p>定期試験 なし</p>			
<p>テキスト 文部科学省「幼稚園教育要領(平成29年告示)」, 同解説, 厚生労働省「保育所保育指針」, 同解説書, 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)」, 同解説, 幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開(平成25年7月改訂)」フレール館, 「幼児理解に基づいた評価(平成31年3月)」チャイルド本社</p>			
<p>参考書・参考資料等          文献等については、適宜授業内で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

最終レポート（50％）と授業中に課す小レポート（50％）を併せて総合的に評価する。幼児教育・保育におけるカリキュラムの構造と編成、指導計画の作成・実践・評価の過程、環境構成のあり方を子どもの遊びや生活と関連付けて考察しているかを評価の観点とする。

授業科目名：教育課程の理論と実践	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田雅彦、関口貴裕、梶井芳明、上杉嘉見
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育における教育課程の意義、教育課程の編成・評価の原理・方法、カリキュラム・マネジメントについて理解し、学校独自の教育課程の編成意図と評価の視点を読み取れるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育課程の類型や歴史的経緯等について、学習指導要領の変遷等に即して事例を参照し、講義に先立って各自で定義や分類を試み、講義や自由討議、相互批評等を通じて理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：教育課程の定義と役割</p> <p>第3回：教育課程の諸類型と歴史的経緯</p> <p>第4回：学習指導要領の変遷とその社会的背景</p> <p>第5回：教育課程編成における教科・領域の位置づけ</p> <p>第6回：教育課程編成の原理</p> <p>第7回：教科横断・合科的教育課程編成の原理(1) 学際的・時事的内容の学習</p> <p>第8回：教科横断・合科的教育課程編成の原理(2) 児童・生徒の学習への動機づけ</p> <p>第9回：教科横断・合科的教育課程編成の原理(3) 児童・生徒の関心に立脚した学習</p> <p>第10回：学校の実態に応じた(School Based)教育課程編成</p> <p>第11回：教育課程内容と教材内容、教育方法、学習指導計画、学習内容の関係</p> <p>第12回：教材作成への情報通信技術の活用</p> <p>第13回：カリキュラム・マネジメントの意義と原理</p> <p>第14回：教育課程評価の視点と方法</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』</p>			
<p>参考書・参考資料等 授業時間中に適宜指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

受講態度（授業中の討議への参加・貢献状況）20%、各回の課題の提出状況と達成水準40%、期末試験40%を個別に評定し、総合的に判断して評価する。



授業科目名： 教育の方法とICT	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋純、犬塚 (武内)美輪、渡辺貴裕、 登本洋子、太田絵梨子 担当形態： クラス分け・単独
科目	道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼稚園、養護）</li> <li>・教育の方法及び技術（小学校、中学校、高等学校）</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（小学校、中学校、高等学校）</li> </ul>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、及び教育の技術、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方及び児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>GIGAスクール構想の進展により、児童生徒が一人一台端末を活用する事を前提とした授業が行われるようになったことに対応し、本講義でも受講者が一人一台端末を活用しながら学ぶ。従来からの教育方法や授業技術に加えて、同時にICTを活用した場合についても演習等を通して学ぶ。また、校務支援システム、遠隔やオンライン学習、学習履歴（スタディ・ログ）を活用した学習評価といった今後、学校現場求められるICT活用についても学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： これからの授業づくりとICT活用</p> <p>第2回： 教育方法・技術の理論</p> <p>第3回： 資質・能力の育成と教育方法</p> <p>第4回： 主体的・対話的で深い学びの実現，学習過程，見方・考え方</p> <p>第5回： 学習評価</p> <p>第6回： 授業づくりの構成要素</p> <p>第7回： 授業技術</p> <p>第8回： 情報活用能力の育成</p> <p>第9回： 効果的な指示や説明のためのICT活用</p> <p>第10回： 知識及び技能の習得とICT活用</p> <p>第11回： 思考力，判断力，表現力等の育成とICT活用</p> <p>第12回： 遠隔やオンライン，様々なニーズに応じた教育とICT活用</p> <p>第13回： 校務支援システムの活用やICT環境整備</p>			

第14回： 学習指導案の作成

期末試験

テキスト

高橋純編著『教育方法とカリキュラム・マネジメント』（2019年10月 学文社）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）ほか

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に指定する

学生に対する評価

積極的な授業参加度（20%）、毎回の授業で課す課題の達成水準（40%）、期末試験（40%）を個別に評定し、総合的に判断して評価する。

授業科目名：幼児理解 の理論と方法 (a)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：請川滋大
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>子どもを理解することは保育実践の基本であることを踏まえて、幼稚園など保育実践の場における子どもの生活および遊びの実態に即して、子どもの発達および学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理および対応の方法を考えられることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義と原理について理解している。</li> <li>2. 子ども理解についての知識を身に付け、体験や学びの過程において子どもを理解するための基本的な考え方や基礎的態度を理解している。</li> <li>3. 子どもを理解するための方法を具体的に理解している。</li> <li>4. 子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解している。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもを保育実践の中で理解することの意義とその方法について学ぶために、以下の点を重視しながら授業を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において子どもを理解するために、具体的な事例（動画や写真を含む）を用いながら授業を進め、そこでの子ども理解やその背景について考えられるようにしていく。</li> <li>2. 子どもを理解するためにはどのような方法があるのか、またそれを保育実践の中でどう進めていけるのかを具体的な例を示しながら説明する。</li> <li>3. 子どもの理解に基づいた保育者の援助や態度はどうあるべきか理解できるよう、実際の場面を想定しながら演習課題に取り組んでいく。</li> </ol>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育における子ども理解の意義</p> <p>第2回：子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開</p> <p>第3回：子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり</p> <p>第4回：子どもの生活と遊び</p> <p>第5回：人的環境としての保育者と子どもの発達</p> <p>第6回：子ども相互の関わりと関係づくり</p> <p>第7回：集団における経験と育ち－自己発揮・対話・葛藤やつまずき</p> <p>第8回：保育環境の理解とその構成・変化・移行</p> <p>第9回：子どもを理解する方法－観察・記録・評価・省察</p> <p>第10回：職員間の対話・保護者との情報の共有</p>			

第 1 1 回：発達の課題に応じた援助と関わり

第 1 2 回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助

第 1 3 回：発達の連続性と就学への支援—幼保小の接続と連携

第 1 4 回：全体のまとめ及び期末試験

テキスト

請川滋大（著） 2020 「子ども理解—個と集団の育ちを支える理論と方法」 萌文書林

参考書・参考資料等

文部科学省（編） 2018 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

厚生労働省（編） 2018 「保育所保育指針解説」 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（編） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館

学生に対する評価

毎回の授業で課す小レポート（40%）、期末試験（60%）

授業科目名：幼児理解 の理論と方法 (b)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：請川滋大
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児を理解することは保育実践の基本であることを踏まえて、幼稚園など保育実践の場における幼児の生活および遊びの実態に即して、幼児の発達および学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理および対応の方法を考えられることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において、実態に応じた幼児一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義と原理について理解している。</li> <li>2. 幼児理解についての知識を身に付け、体験や学びの過程において幼児を理解するための基本的な考え方や基礎的態度を理解している。</li> <li>3. 幼児を理解するための方法を具体的に理解している。</li> <li>4. 幼児の理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解している。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児を保育実践の中で理解することの意義とその方法について学ぶために、以下の点を重視しながら授業を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において幼児を理解するために、具体的な事例（動画や写真を含む）を用いながら授業を進め、そこでの幼児理解やその背景について考えられるようにしていく。</li> <li>2. 幼児を理解するためにはどのような方法があるのか、またそれを保育実践の中でどう進めていけるのかを具体的な例を示しながら説明する。</li> <li>3. 幼児の理解に基づいた保育者の援助や態度はどうあるべきか理解できるよう、実際の場面を想定しながら演習課題に取り組んでいく。</li> </ol>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育における幼児理解の意義</p> <p>第2回：幼児理解に基づく養護及び教育の一体的展開</p> <p>第3回：幼児に対する共感的理解と子どもとの関わり</p> <p>第4回：幼児の生活と遊び</p> <p>第5回：人的環境としての保育者と幼児の発達</p> <p>第6回：幼児相互の関わりと関係づくり</p> <p>第7回：集団における経験と育ち—自己発揮・対話・葛藤やつまずき</p> <p>第8回：保育環境の理解とその構成・変化・移行</p> <p>第9回：幼児を理解する方法—観察・記録・評価・省察</p> <p>第10回：職員間の対話・保護者との情報の共有</p>			

第 1 1 回：発達の課題に応じた援助と関わり

第 1 2 回：特別な配慮を要する幼児の理解と援助

第 1 3 回：発達の連続性と就学への支援—幼保小の接続と連携

第 1 4 回：全体のまとめ及び期末試験

テキスト

請川滋大（著） 2020 「子ども理解—個と集団の育ちを支える理論と方法」 萌文書林

参考書・参考資料等

文部科学省（編） 2018 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（編） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館

学生に対する評価

毎回の授業で課す小レポート（40%）、期末試験（60%）

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 工藤浩二、江角(木村)周子、 山口遼、高橋智子、日下虎太 朗、新井雅、池田一成
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理 論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 児童生徒の心身の発達の状況を踏まえつつ、それぞれの心理社会的課題や教育的課題を的確に捉え、 教員としてその支援を適切に行うために必要となる基礎的な態度、知識、技能等を身につけること を目標とする。			
授業の概要 教育相談活動において、教員として児童生徒支援を進める際に必要な基礎的な態度、知識、 技能等（基礎的なカウンセリング・スキルを含む）を理解する。教育相談の具体的な進め方や そのポイント、連携の在り方などを理解する。			
授業計画 第 1 回：本授業の目的と意義 第 2 回：教育相談とは 第 3 回：生徒の「不適応」を考える 第 4 回：教育相談に関わる心理学の基礎的な知識 第 5 回：生徒の辛さを理解する—教員として、どう理解し、どう寄り添うのか— 第 6 回：生徒のSOSを受け止める—いじめの場合— 第 7 回：生徒のSOSを受け止める—虐待の場合— 第 8 回：生徒のSOSを受け止める—不登校の場合— 第 9 回：生徒の話がきける教師ときけない教師—傾聴— 第 10 回：生徒の話がきける教師になる—感情の反映— 第 11 回：生徒の話がきける教師になる—言い換え— 第 12 回：生徒支援の進め方 第 13 回：教育相談体制（連携）の在り方 第 14 回：危機的な状況での生徒の心のケア			
テキスト			

授業中に適宜配布する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

- ・授業内課題の評価（レスポンスペーパー、レポートなど）：70%
- ・期末評価（レポートもしくはテスト）：30%



## シラバス：教職実践演習

シラバス：保育・教職実践演習（幼稚園）		単位数：2単位		担当教員名：平野麻衣子、山崎寛恵	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数	20人以下				
<b>教員の連携・協力体制</b> 保育内容の指導法、領域専門の教員がともに連携して授業を実施。保育内容の指導力及び専門知識の補充・深化・発展を行う。					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 「教職観・保育者観」「保育内容指導力」「子ども理解力」「生活指導力」「地域や家庭との連携・協働」に関わる教員や保育者として必要な知識・技能全体について、学生が入学以来の自らの学習履歴を省察して到達点と課題を確認し、それらの知識・技能を身につけるとともに課題克服の方途を明確にする。					
<b>授業の概要</b> 授業内容に関しては、次のような各回の授業のねらいを達成することを目途とする。					
① 履修カルテやポートフォリオに基づく達成度を、領域に関する科目、教職に関する科目などの区分を念頭において各自が整理・まとめ、それらを踏まえた到達度の確認と課題の自覚化（主に第1回から第3回）。					
② 教職経験者・教育支援専門家の講話や資料から、求められる教員像・保育者像の具体化（主に第4回から第9回）。					
③ 問題場面を想定した生活指導の設計・実施・評価・改善を通して、生活指導力の確認と課題の自覚化（主に第4回から第9回）。					
④ 模擬保育や事例研究等の設計・実施・評価・改善を通して、保育内容指導力の確認と課題の自覚化（主に第10回から第13回）。					
⑤ 本授業を「振り返りシート」作成を通して省察し、自らの課題を明らかにし、課題克服の方途を明確化（主に第14回）。					

### 授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：教師・保育者として必要な知識技能についての省察（教育実習レポートの作成）

第3回：教師・保育者として必要な知識技能についての省察（教育実習レポートを活用したグループワーク）

第4回：保育者像・教職観・子ども理解・学級経営力・地域や家庭との連携協働環境づくり（公立学校校長・副校長経験者による講話）

第5回：保育者像・教職観・子ども理解・学級経営力・地域や家庭との連携協働環境づくり（5－10年経験教師による講話）

第6回：保育者像・教職観・子ども理解・学級経営力・地域や家庭との連携協働環境づくり（子どもの貧困について）

第7回：保育者像・教職観・子ども理解・学級経営力・地域や家庭との連携協働環境づくり（教育学、心理学等の専門家による講義）

第8回：保育者像・教職観・子ども理解・学級経営力・地域や家庭との連携協働環境づくり（子どもの健康といのちについて）

第9回：保育者像・教職観・子ども理解・学級経営力・地域や家庭との連携協働環境づくりにかかるグループディスカッション

第10回：保育内容の補充・深化・発展①（子ども理解に基づく保育内容指導力の課題についてのグループワーク）

第11回：保育内容の補充・深化・発展②（模擬保育とディスカッション）

第12回：保育内容の補充・深化・発展③（家庭支援や保育者間の協働、関係機関との連携の課題についてのグループワーク）

第13回：保育内容の補充・深化・発展④（事例研究とディスカッション）

第14回：「まとめ（「振り返りシート」の記入と「最終レポート」の作成）」及び「今後の展望」について

### テキスト

『「教職入門」の記録』

### 参考書・参考資料等

授業時間中に適宜紹介します。

### 学生に対する評価

授業への参加状況30%、提出物30%、最終レポートの内容40%を総合的に判断して決定する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

## シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習	単位数：2単位	担当教員名： 佐々木幸寿、関口貴裕、湯浅佳子、千田洋幸、高山芳樹、大澤克美、川手圭一、苫米地伸、川崎誠司、椿真智子、井ノ口哲也、小嶋茂稔、中村光一、前田優、植松晴子、國仙久雄、高橋修、松浦執、原田和雄、荒川悦雄、鎌田正裕、坂口謙一、望月高昭、森本康彦、中地雅之、清水和高、朝野浩行、鈴木聡、加藤泰弘、山本昭範、澤田康徳、伊藤秀樹、品田瑞穂、平田正吾、大鹿綾、渡瀬典子、藤田(工藤)智子、大澤千恵子、中村純子、日高智彦、田中心、山本卓宏、清野辰彦、成田慎之介、西田尚央、中西(狩野)史、FerjaniAli、藤井和人、吉川文、石川裕司、正木賢一、笠原広一、佐藤善人、石井健、長瀬潤、相原琢磨、江原遥、今井慎一、渡辺純成、戸田孝子、志野文乃、相田眞喜子、浦口理麻、齋藤ひろみ			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数	40人以下(1クラスにつき、必ず2名以上の教員が担当し、グループを分けて指導するため、1グループあたりの受講者数は20人以下となる。)				
教員の連携・協力体制 教科教育、教科専門の教員がともに連携して授業を実施。各教科の指導力及び専門知識の補充・深化・発展を行う。					
授業のテーマ及び到達目標 「教職観」「教科基礎力」「学習指導力」「子ども理解力」「生活指導力」に関わる教員として必要な知識・技能全体について、学生が入学以来の自らの学習履歴を省察して到達点と課題を確認し、それらの知識・技能を身につけるとともに課題克服の方途を明確にする。					
授業の概要 授業内容に関しては、次のような各回の授業のねらいを達成することを目途とする。					
①履修カルテやポートフォリオに基づく達成度を、教科に関する科目、教職に関する科目などの区分を念頭において各自が整理・まとめ、それらを踏まえた到達度の確認と課題の自覚化(主に第1回から第3回)。					
②教職経験者・教育支援専門家の講話や資料から、求められる教員像の具体化(主に第4回から第9回)。					
③問題場面を想定した生活指導の設計・実施・評価・改善を通して、生活指導力の確認と課題の自覚化(主に第4回から第9回)。					
④模擬授業や事例研究等の設計・実施・評価・改善を通して、学習指導力(情報通信技術の活用					

<p>を含む)の確認と課題の自覚化(主に第10回から第13回)。</p> <p>⑤本授業を「振り返りシート」作成を通して省察し、自らの課題を明らかにし、課題克服の方途を明確化(主に第14回)。</p>
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：教師として必要な知識技能についての省察(教育実習レポートの作成)</p> <p>第3回：教師として必要な知識技能についての省察(教育実習レポートを活用したグループワーク)</p> <p>第4回：教師像・教職観・子ども理解・学級経営力・学習共同環境づくり(公立学校校長・副校長経験者による講話)</p> <p>第5回：教師像・教職観・子ども理解・学級経営力・学習共同環境づくり(5-10年経験教師による講話)</p> <p>第6回：教師像・教職観・子ども理解・学級経営力・学習共同環境づくり(教育学、心理学等の専門家による講義)</p> <p>第7回：教師像・教職観・子ども理解・学級経営力・学習共同環境づくり(子どもの健康といのちについて)</p> <p>第8回：教師像・教職観・子ども理解・学級経営力・学習共同環境づくり(こどもの貧困について)</p> <p>第9回：教師像・教職観・子ども理解・学級経営力・学習共同環境づくりにかかるグループディスカッション</p> <p>第10回：教科指導力1(教科教育の補充(情報通信技術の活用を含む))</p> <p>第11回：教科指導力2(教科教育の深化・発展(情報通信技術の活用を含む))</p> <p>第12回：教科指導力3(教科専門の補充)</p> <p>第13回：教科指導力4(教科専門の深化・発展)</p> <p>第14回：「まとめ(「振り返りシート」の記入と「最終レポート」の作成)」及び「今後の展望」について</p>
<p>テキスト</p> <p>『「教職入門」の記録』</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業時間中に適宜紹介します。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加状況30%、提出物30%、最終レポートの内容40%を総合的に判断して決定する。</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名：特別活動・総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 尚示 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法 総合的な学習の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を理解する。</li> <li>・特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付ける。</li> <li>・総合的な学習の時間については、目標、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動は、授業のテキストや体験活動をとおして、具体的な活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体であることを理解する。</li> <li>・総合的な学習の時間は、授業のテキストや体験活動をとおして、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す活動であることを理解する。</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【講義】学習指導要領における特別活動の目標と内容</p> <p>第2回：【講義・演習】教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連</p> <p>第3回：【講義・演習】学級活動・ホームルーム活動</p> <p>第4回：【講義・演習】児童会・生徒会活動，クラブ活動，学校行事</p> <p>第5回：【講義・演習】教育課程全体で取り組む特別活動の指導</p> <p>第6回：【講義・演習】特別活動における取組の評価</p> <p>第7回：【講義・演習】合意形成，意思決定についての指導の在り方</p> <p>第8回：【講義】総合的な学習の時間の意義と資質・能力</p> <p>第9回：【講義・演習】総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容</p> <p>第10回：【講義・演習】総合的な学習の時間の年間指導計画</p> <p>第11回：【講義・演習】総合的な学習の時間の単元計画</p> <p>第12回：【講義・演習】探究的な学習の指導のための具体的な手立て</p> <p>第13回：【講義・演習】児童及び生徒の学習状況に関する評価</p>			

第14回：【講義・定期試験】授業のまとめ

テキスト

教師のための教職シリーズ9 特別活動 改訂版－総合的な学習（探究）の時間とともに－ 林尚示, 鈴木樹, 佐野泉 学文社（東京） 2019 ¥2,530.

参考書・参考資料等

上岡学・林尚示編著『アクティベート教育学11 特別活動の理論と実践』ミネルヴァ書房 2020年。

渡邊正樹・林尚示編著『小学校・中学校における安全教育』培風館 2020年。

文部科学省 『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年3月 文部科学省）

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年3月 文部科学省）

文部科学省 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年3月 文部科学省）

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年3月 文部科学省）

文部科学省 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成30年3月 文部科学省）

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成30年3月 文部科学省）

その他，授業時に随時紹介する。

学生に対する評価

授業課題(60%)・積極的授業参加度(40%)を目安として総合的に評価する。

授業科目名：生徒指導・ 進路指導の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 秀樹、松山 康成、 柗 利也 担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒指導については、その意義や現状をおさえながら理論と方法について深く理解し、他の教職員や関係機関等と連携しながら組織的に生徒指導を進めていけるようになることを目標とする。</p> <p>進路指導とそれを包含するキャリア教育については、両者の意義と現状をふまえ、それらの視点に立った授業改善やキャリアガイダンス、キャリア・カウンセリング等の理論と方法について理解し、学校内外と連携しながら組織的に進路指導・キャリア教育に取り組めるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導については、生徒指導の意義と教育課程上の位置づけ、個別指導と集団指導の方法原理、いじめ・不登校をはじめとした個別の課題を抱える児童生徒への対応、学校における生徒指導体制、家庭・地域・関係機関との連携等に関して、講義とディスカッション、レポート作成の一連の過程のなかで理論と方法の両側面を学んでいく。</p> <p>進路指導・キャリア教育については、進路指導・キャリア教育の意義と教育課程上の位置づけ、キャリア・パスポートの活用、キャリアガイダンスとキャリア・カウンセリング、職業体験・インターンシップ、近年の若者の労働問題等に関して、講義とディスカッション、レポート作成の一連の過程のなかで理論と方法の両側面を学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導・進路指導・キャリア教育とは何か</p> <p>第2回：生徒指導の意義と教育課程上の位置づけ</p> <p>第3回：個別指導の方法原理（児童生徒理解・教育相談を含む）</p> <p>第4回：集団指導の方法原理（校則・懲戒・体罰等を含む）</p> <p>第5回：個別の課題を抱える児童生徒への対応①：暴力行為・いじめ（インターネット・携帯電話にかかわる課題を含む）</p> <p>第6回：個別の課題を抱える児童生徒への対応②：不登校・中途退学</p> <p>第7回：個別の課題を抱える児童生徒への対応③：少年非行（性に関する課題を含む）</p>			

第 8 回：個別の課題を抱える児童生徒への対応④：学校の中の多様性

第 9 回：学校における生徒指導体制

第 10 回：学校と家庭との連携（児童虐待への対応を含む）

第 11 回：学校と地域・関係機関との連携

第 12 回：キャリア教育の意義と現在①：進路指導・キャリア教育の意義と教育課程上の位置づけ（特別活動におけるキャリア・パスポートの活用を含む）

第 13 回：キャリア教育の意義と現在②：キャリアガイダンスとキャリア・カウンセリング

第 14 回：職業体験・インターンシップと現代の労働問題

テキスト

林尚示・伊藤秀樹編著，2018年，『生徒指導・進路指導 第二版——理論と方法』（教師のための教育学シリーズ10），学文社.

参考書・参考資料等

文部科学省，2010年，『生徒指導提要』.

文部科学省，2011年，『小学校キャリア教育の手引き<改訂版>』.

文部科学省，2011年，『中学校キャリア教育の手引き』.

文部科学省，2011年，『高等学校キャリア教育の手引き』.

学生に対する評価

授業への参加態度（コメントシートの提出状況を含む）30%、レポート（計3回）70%を目安として、総合的に評価する。



## シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習(養護教諭)		単位数：2単位	担当教員名： 竹鼻ゆかり、荒川唯子		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数	10人				
<b>教員の連携・協力体制</b> 教職及び養護専門の教員がともに連携して授業を実施。養護教諭としての指導力及び専門知識の補充・深化・発展を行う。					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 「教職観」「学校保健の推進者」「健康教育の推進者」「子ども理解力」「生活指導力」に関わる養護教諭として必要な知識・技能全体について、学生が入学以来の自らの学習履歴を省察して到達点と課題を確認し、それらの知識・技能を身につけるとともに課題克服の方途を明確にする。 さらに今までの学びの集大成として、自らの「養護観」「健康観」を明確にする。					
<b>授業の概要</b> 授業内容に関しては、次のような各回の授業のねらいを達成することを目途とする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①履修カルテやポートフォリオに基づく達成度を、養護に関する科目、教職に関する科目などの区分を念頭において各自が整理・まとめ、それらを踏まえた到達度の確認と課題の自覚化（主に第1回から第3回）。</li> <li>②教職経験者・教育支援専門家の講話や資料から、求められる養護教諭像の具体化（主に第4回から第9回）。</li> <li>③問題場面を想定した健康課題の設計・実施・評価・改善を通して、養護教諭の専門性と健康課題解決力の確認と課題の自覚化（主に第4回から第9回）。</li> <li>④事例研究等の設計・実施・評価・改善を通して、養護教諭の専門性と健康課題解決力の確認と課題の自覚化（主に第10回から第13回）。</li> <li>⑤本授業を「振り返りシート」作成を通して省察し、自らの課題を明らかにし、課題克服の方途を明確化（主に第14回）。</li> </ol>					

### 授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：養護教諭として必要な知識技能についての省察（教育実習レポートの作成）

第3回：養護教諭として必要な知識技能についての省察（教育実習レポートを活用したグループワーク）

第4回：養護教諭像・教職観・子ども理解・保健室経営力・学校環境づくり（ベテラン養護教諭による講話）

第5回：養護教諭像・教職観・子ども理解・保健室経営力・学校環境づくり（5－10年経験養護教諭による講話）

第6回：養護教諭像・教職観・子ども理解・保健室経営力・学校環境づくり（公立学校校長・副校長経験者による講話）

第7回：養護教諭像・教職観・子ども理解・保健室経営力・学校環境づくり（教育学、心理学等の専門家による講義）

第8回：養護教諭像・教職観・子ども理解・保健室経営力・学校環境づくり（子どもの貧困）第

9回：養護教諭像・教職観・子ども理解・保健室経営力・学校環境づくりにかかるグループディスカッション

第10回：教職専門指導力1（健康課題解決のための連携（1））

第11回：教職専門指導力2（健康課題解決のための協働（2））

第12回：養護専門指導力1（「養護観」「健康観」に関する補充）

第13回：養護専門指導力2（「養護観」「健康観」に関する深化・発展）

第14回：「まとめ（「振り返りシート」の記入と「最終レポート」の作成）」及び「今後の展望」について

### テキスト

『「教職入門」の記録』

### 参考書・参考資料等

授業時間中に適宜紹介します。

### 学生に対する評価

授業への参加状況30%、提出物30%、最終レポートの内容40%を総合的に判断して決定する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名：特別支援教育概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村山 拓
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>今日の特別支援教育の思想的、制度的基盤を理解するために、特別支援教育やそれに至る取り組みの展開を概観した上で、特別支援教育がどのような形で具体化されているかを検討する。特別支援学校等の教育場面において制度や指導形態の特徴を理解することをも目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育の基盤を理解するために、その歴史、思想、制度についてのトピックを取り上げ、特別支援教育がどのような形で具体化されているかを考察する。特別支援学校等の制度的基盤、指導形態の特徴について理解を深めることによって、特別支援教育を専攻したり、特別支援学校の教員免許状取得を目指す学生が、関連する科目の学習を効果的に進めるための基礎的知識を学習する。</p> <p>講義内容は、特別支援学校に関する内容を中心とするが、特別支援学級やいわゆる通常の学級に在籍しながらさまざまな教育的ニーズを有する子供が、同じ教室で学ぶようになってきている今日的動向を踏まえ、そのような教育実践における学校の役割についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育を学ぶ上での基本的な用語や基礎的知識</p> <p>第2回：支援を要する子どもの現状の理解</p> <p>第3回：特別支援教育の歴史的、思想的基盤</p> <p>第4回：特別支援教育に関する法令の基礎的理解</p> <p>第5回：特別支援教育に関する制度の基礎的理解</p> <p>第6回：障害の特性に応じた子どもの理解と指導（1）認知発達障害を中心とした検討</p> <p>第7回：障害の特性に応じた子どもの理解と指導（2）心身機能障害を中心とした検討</p> <p>第8回：多様な教育ニーズへの対応</p> <p>第9回：インクルーシブ教育システムの制度的特徴</p> <p>第10回：特別支援教育における自立活動等のカリキュラムの特徴</p> <p>第11回：特別支援教育と学級経営</p> <p>第12回：生涯発達支援に基づく取り組み</p> <p>第13回：家庭・保護者との連携</p>			

**第 1 4 回：特別支援教育における多職種連携の可能性****定期試験****テキスト**

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）「障害のある子供の支援の手引」（文部科学省ウェブサイトよりダウンロード可。授業の中で指示する。）

その他、受講者の学習状況等に応じて、参考書等の中から追加で指定する場合がある。

**参考書・参考資料等**

安藤正紀（2019）『グローバル化とインクルーシブ教育』、北大路書房

柏木恭典ほか（2011）『学校という対話空間』、北大路書房

市川宏伸（編著）（2014）『発達障害の「本当の理解」とは—医学、心理、教育、当事者、それぞれの視点』、金子書房

文部科学省（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）開隆堂

その他、授業の中で紹介する。

**学生に対する評価**

学期末に試験ないしレポートを課す（概ね60%）。その他、小レポート（概ね40%）や授業への参加状況を加味しながら、総合的に判断する。学期末試験（あるいはレポート）の成績スコアが著しく低い場合には、他の成績評価要件が良好でも、単位取得に至らない場合がある。

授業科目名：聴覚言語障害の心理・生理・病理A	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱田 豊彦
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：聴覚障害者）		
授業のテーマ及び到達目標： 特別支援学校で必要とされる聴覚の心理・生理・病理の基礎並びに心身の発達に聴覚障害が及ぼす影響（言語獲得や社会性）について講述する。そして、障害特性に応じたコミュニケーション手段や教育支援の基本を身につけることを目的とする。			
授業の概要： 聴覚器の各々の部位の解剖学的な仕組みと機能とともに、聴覚障害を引き起こす代表的な疾病について講述する。そして手話を含む多様なコミュニケーション手段について補聴器や人工内耳の効用と限界を押さえつつ、発達の観点から解説する。また聴覚障害により生じる発達の課題（言語獲得や社会性）を詳述し、言語・コミュニケーションの評価法や障害認識および早期からの保護者の障害受容支援の重要性についてグループワークを含めながら理解を深める。グループワーク以外にも多くの発問を行い、対話的に授業を進める予定である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（障害の概念と音の3要素） 第2回：聴覚の仕組みと機能1（伝音系） 第3回：聴覚の仕組みと機能2（感音系と中枢） 第4回：聴覚障害を引き起こす原因（病理） 第5回：聴力検査の基本とオーディオグラム 第6回：様々なコミュニケーション 第7回：手話とろう文化（グループワークを含む） 第8回：補聴器や人工内耳の効用と限界 第9回：聴覚活用の発達 第10回：自然言語の獲得と聴覚障害 第11回：聴覚障害児の言語的特徴（音韻、語彙、文法、談話） 第12回：言語の評価（グループワークを含む） 第13回：社会性の発達と保護者支援（障害認識と障害受容） 第14回：まとめと試験			
テキスト 授業で用いるパワーポイントのハンドアウトを資料とする			
参考書・参考資料等			

授業時間中に適宜指示する

学生に対する評価

最終回の試験により本授業の全体の理解度を評価する（70%）他に、授業中の発問やグループワークでの積極性や発言内容を評価の対象とする（30%）。

授業科目名：聴覚言語 障害の心理・生理・病 理B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大鹿 綾 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関す る科目(中心領域：聴覚障害者)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>聴覚障害、コミュニケーション障害はなぜ、どのように発生するのかについて、生理学的、病理学的知見から障害特性の基礎的な事項について理解できるようにする。その上で、聴覚障害・コミュニケーション障害のある子どもたちの心身の発達を促すために、彼らの心理的側面について理解し、教育的支援につながる視点をもつことができるようにすることが到達目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>聴覚障害、言語障害（構音障害、吃音、特異的言語発達遅滞等）について心理・生理・病理的観点から説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コミュニケーションとは</p> <p>第2回：構音障害の生理・病理</p> <p>第3回：構音障害の心理と支援</p> <p>第4回：吃音の生理・病理</p> <p>第5回：吃音の心理と支援</p> <p>第6回：特異的言語発達遅滞の生理・病理</p> <p>第7回：特異的言語発達遅滞の心理と支援</p> <p>第8回：その他のコミュニケーション障害</p> <p>第9回：聴覚障害の生理</p> <p>第10回：聴覚障害の病理</p> <p>第11回：聴覚障害のアセスメント</p> <p>第12回：聴覚保障と情報保障</p> <p>第13回：聴覚障害の心理と支援</p> <p>第14回：まとめと最終試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教員が作成した資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業時間中に適宜指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

授業への参加態度30%、小レポート20%、最終試験50%



授業科目名：知的障害の 心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：池田吉史、平田 正吾 担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知的障害者）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援学校や特別支援学級に在籍する知的障害児の心理・生理・病理に関する基礎的知識を習得することをテーマとする。具体的には、知的障害の概念、発生機序、心理学的特性、支援の在り方を理解することを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援学校や特別支援学級に在籍する知的障害のある児童生徒の理解と支援について、基本的な知識を講義する。知的障害の定義・分類・アセスメント、知的障害の発生に関わる生理・病理、脳の構造と機能、心身の発達等を理解した上で、障害特性に応じた教育的支援の在り方について理解することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：知的障害の概念・分類・発生要因</p> <p>第 2 回：知的障害のアセスメント：知的機能</p> <p>第 3 回：知的障害のアセスメント：適応行動</p> <p>第 4 回：知的障害と実行機能：理解</p> <p>第 5 回：知的障害と実行機能：発達</p> <p>第 6 回：知的障害と実行機能：支援</p> <p>第 7 回：知的障害と愛着：理解</p> <p>第 8 回：知的障害と愛着：支援</p> <p>第 9 回：知的障害と感情</p> <p>第 10 回：知的障害と社会的認知</p> <p>第 11 回：知的障害と言語</p> <p>第 12 回：知的障害と数概念</p> <p>第 13 回：知的障害と身体運動</p> <p>第 14 回：知的障害と遺伝性疾患：ダウン症</p>			
定期試験			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校幼稚部教育要領（平成 29 年 4 月 文部科学省）</li> <li>・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月 文部科学省）</li> </ul>			

・特別支援学校高等部学習指導要領（平成 3 1 年 4 月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・國分充・平田正吾（2020）知的障害・発達障害における「行為」の心理学：ソヴィエト心理学の視座と特別支援教育. 福村出版.
- ・北洋輔・平田正吾（2019）発達障害の心理学：特別支援教育を支えるエビデンス. 福村出版.
- ・森口佑介（2018）自己制御の発達と支援. 金子書房.

学生に対する評価

積極的な授業参加度（20%）、レポート課題の記載内容（20%）、期末試験（60%）を個別に評定し、総合的に判断して評価する。

授業科目名：肢体不自由の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 正吾
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢体不自由者）		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 肢体不自由教育における代表的な対象の特性に関して、生理・病理学的観点から説明できる。			
2) 肢体不自由教育における児童生徒の心理特性に関して、その評価法も含め説明できる。			
授業の概要			
<p>肢体不自由教育の対象となる児童生徒における運動障害のほとんどは、脳から筋肉へと至る神経系の障害に起因する。本講義では、そもそも私たちの運動がどのような生理に基づき実現され、発達的に変化していくのか概観すると共に、発達初期に神経系に生じた病理が、どのような運動障害、すなわち肢体不自由をもたらすのか、「脳性麻痺」と「二分脊椎」を中心としながら見ていく。また、肢体不自由児が、どのような心理学的特徴を有するのか、知的機能と社会性の2側面から、その評価法も含め見ていく。</p>			
授業計画			
第1回：肢体不自由教育の基礎的事柄			
第2回：脳についての基礎的知識1 脳の概観とニューロンの機能			
第3回：脳についての基礎的知識2 脳の発達と脳機能の探索法			
第4回：肢体不自由の生理病理1 いわゆる「運動路」の機能			
第5回：肢体不自由の生理病理2 運動路の問題による運動障害：二分脊椎			
第6回：肢体不自由の生理病理3 運動路の問題による運動障害：脳性麻痺			
第7回：肢体不自由の生理病理4 脳性麻痺の疫学と病理			
第8回：肢体不自由の生理病理5 未熟出生と脳性麻痺			
第9回：その他の運動障害			
第10回：初期の運動発達1 運動マイルストンの獲得			
第11回：初期の運動発達2 原始反射・姿勢反射について			
第12回：肢体不自由の心理1 知的機能の評価			
第13回：肢体不自由の心理2 社会性の評価			
第14回：まとめ			
定期試験			
テキスト			

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

特別支援教育のための障害理解（金子書房）

学生に対する評価

講義内で適宜、提示する小課題（10%）及び、定期試験（90%）による評価を行う。

授業科目名：病弱の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 正吾
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病弱者）		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 病弱教育における代表的な対象の特性に関して、生理・病理学的観点から説明できる。 2) 病弱教育における児童生徒の心理特性に関して、その評価法も含め説明できる。			
授業の概要			
病弱教育の対象は、小児がんや神経難病、内科的疾患をはじめ心身症まで多岐に渡る。本講義では、こうした病弱教育における主要な対象の病理に関して、私たちの基本的な生理機能を参照しつつ見ていく。また、自己肯定感の低さや心的外傷後ストレス障害といった病弱教育と関連する心理学的問題を、どのように評価し、支援と結びつけていくのか、その基礎的事柄を見ていく。			
授業計画			
第1回：病弱教育の基礎的事柄			
第2回：小児がんとは何か？ 1 小児がんの種類とメカニズム			
第3回：小児がんとは何か？ 2 白血病の基礎的事柄と支援			
第4回：小児がんとは何か？ 3 リンパ腫・脳腫瘍の基礎的事柄と支援			
第5回：先天性心疾患の基礎的事柄と支援			
第6回：アレルギー・呼吸器疾患の基礎的事柄と支援			
第7回：糖尿病の基礎的事柄と支援			
第8回：神経難病の基礎的事柄と支援			
第9回：心身症とは何か？ 1 その定義と種類			
第10回：心身症とは何か？ 2 発達障害と心身症			
第11回：小児における精神疾患の基礎的事柄			
第12回：自己肯定感の基礎的事柄と支援			
第13回：心的外傷後ストレス障害の基礎的事柄と支援			
第14回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

特別支援教育のための障害理解（金子書房）

学生に対する評価

講義内で適宜、提示する小課題（10%）及び、定期試験（90%）による評価を行う。

授業科目名:聴覚言語障害の指導法A	教員の免許状取得のための必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:澤 隆史 担当形態:単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域:聴覚障害者)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援教育においては、それぞれの障害特性や個人に応じた指導が一層重視されている。本授業では聴覚障害の特性に関する基本を学ぶとともに、聴覚障害児の発達上の課題とそれに応じた教育方法の基本について学習することをねらいとする。本授業の受講によって、より専門的な内容を理解する上での、聴覚障害および聴覚障害教育に関する基礎的知識を学ぶことが期待される。学生には、基本的知識に加えて、聴覚障害児の自立を促すための教育や支援の在り方について、その現状や課題への関心を高めて欲しい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「聴覚障害とはどのような障害か」「聴覚障害教育とはどのような教育か」という点について聴覚障害児の聞こえの状態、発達上の特徴や課題について学ぶと共に、特別支援学校（聾学校）を中心として、特別支援学級（難聴学級）、通級指導教室（聞こえの教室）などの各教育機関の役割や教育課程の特徴、指導上の特徴について講義を通じて学習する。また、自立活動および教科指導の側面を中心に教育・指導の理念や方法を巡る今日的課題について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション:学習内容の紹介</p> <p>第2回:聴覚障害とはどのような障害か?(1):音の物理の基礎と聞こえの程度</p> <p>第3回:聴覚障害とはどのような障害か?(2):障害の部位と聞こえの特徴</p> <p>第4回:聴覚障害とはどのような障害か?(3):失聴時期による発達への影響</p> <p>第5回:それぞれの教育機関とその特徴(1):特別支援学校の役割と教育内容</p> <p>第6回:それぞれの教育機関とその特徴(2):特別支援学級・通級指導教室の役割と教育内容</p> <p>第7回:それぞれの教育機関とその特徴(3):様々な機関の役割と学校との連携</p> <p>第8回:聴覚障害児の発達課題と支援(1):認知能力の発達と支援</p> <p>第9回:聴覚障害児の発達課題と支援(2):教科学習における支援</p> <p>第10回:聴覚障害児の発達課題と支援(3):音声言語の発達と支援</p> <p>第11回:聴覚障害児の発達課題と支援(4):文字言語の発達と支援</p> <p>第12回:聴覚障害児の発達課題と支援(5):コミュニケーションの発達と支援</p> <p>第13回:聴覚障害児の発達課題と支援(6):対人関係・社会性の発達と支援</p> <p>第14回:聴覚障害児・者の教育に関する今日的課題</p> <p>期末テスト</p>			

**テキスト**

配付したプリントとパワーポイント等の視覚的教材によって授業を進める。

**参考書・参考資料等**

●中野善達・根本匡文編著「聴覚障害教育の基本と実際」田研出版。●加瀬進・高橋智編「特別支援教育総論」放送大学教育振興会。●四日市章他編「聴覚障害児の学習と指導 発達と心理学的基礎」明石書店。

**学生に対する評価**

・平常の授業への取り組み(確認テスト・レポート等を含む) 30%  
毎回の授業内容の理解を確認するためにミニテストを行う。また必要に応じてレポートを課す場合がある。ミニテストについてはWEBクラス等のWEB授業システムを利用して実施する。

・期末テスト 70%  
期末テストは学習内容の理解の定着をみるために行い、選択問題、穴埋め問題、記述問題等によって構成する。



授業科目名:聴覚言語障害の指導法B	教員の免許状取得のための必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:澤 隆史 担当形態:単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域:聴覚障害者)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>我が国における聴覚障害児の教育は、1世紀以上の歴史を有し、理論や理念あるいは教育方法の変遷を経てきた。とりわけ最近では、音声・手話・文字等のコミュニケーション手段や言語に関わる様々な考え方が提示されており、今後の教育のあり方を見据える上で、これらの考え方を整理し理解する必要がある。本授業では聴覚障害教育における言語指導方法の展開を踏まえ、聴覚障害教育のあり方について理解を深めることをねらいとする。本授業の受講によって、聴覚障害教育における聴覚活用、コミュニケーション、言語の指導方法、特別支援学校での学習活動(教科学習、自立活動など)に関する発展的知識を学ぶことが期待できる。学生には、聴覚障害児の言語力や学力、生活上の力を育てるための教育・指導・支援の在り方について、その現状や課題への関心を高めて欲しい。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害教育の歴史的展開を踏まえ、特に言語指導の側面を中心に教育・指導の理念や方法を巡る今日的課題について講義を行い、VTRの視聴等を通じて学習を深める。</li> <li>・聴覚活用、言語指導、聴覚特別支援学校での授業等の各テーマについて講義とともに、学生による発表演習を交え、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーションー授業内容の説明ー</p> <p>第2回:聴覚障害教育の変遷1:指導方法の考え方とその変遷</p> <p>第3回:聴覚障害教育の変遷2:多様なコミュニケーション方法による指導</p> <p>第4回:聴覚障害教育における聴覚活用1:幼児期における聴覚の評価と活用</p> <p>第5回:聴覚障害教育における聴覚活用2:補聴機器の特徴と活用</p> <p>第6回:聴覚障害教育における聴覚活用3:教室における補聴援助システムの活用</p> <p>第7回:聴覚障害教育における聴覚活用4:聴覚障害児の聴覚活用(まとめ)</p> <p>第8回:聴覚障害教育における言語指導1:言語力の評価と指導</p> <p>第9回:聴覚障害教育における言語指導2:コミュニケーション手段の活用</p> <p>第10回:聴覚障害教育における言語指導3:言語指導における対話の重要性</p> <p>第11回:聴覚障害教育における言語指導4:聴覚障害児への言語指導(まとめ)</p> <p>第12回:特別支援学校における学習指導1:特別支援学校における教科指導</p> <p>第13回:特別支援学校における学習指導2:特別支援学校における自立活動の指導</p> <p>第14回:通常学校における聴覚障害児への指導</p>			

期末テスト
テキスト
配付したプリントとパワーポイント等の視覚的教材によって授業を進めます。
参考書・参考資料等
●長南浩人編「手話の心理学入門」東峰書房. ●四日市章編著「リテラシーと聴覚障害」コレール社. ●立入哉・中瀬浩一編著「教育オーディオロジーハンドブック」ジアース教育新社.
学生に対する評価
・平常の授業への取り組み(確認テスト・レポート等を含む) 30% 毎回の授業内容の理解を確認するためにミニテストを行う。また必要に応じてレポートを課す場合がある。ミニテストについてはWEBクラス等のWEB授業システムを利用して実施する。 ・期末テスト 70% 期末テストは学習内容の理解の定着をみるために行い、選択問題、穴埋め問題、記述問題等によって構成する。

授業科目名：知的障害 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：奥住秀之  担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知的障害）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目では、特別支援学校（知的障害）の教育課程及び指導・支援法に関する内容を取り扱う。到達目標は以下の3点である。(1)特別支援学校学習指導要領のうちの特に知的障害に係る箇所、及び特別支援学校の知的障害教育課程について理解し、その内容や意義等について考察することができる。(2)特別支援学校（知的障害）における学習及び生活に係る教育指導・支援法について理解し、その内容や意義等について考察することができる。(3)主体的に学習に向かう態度：講義で得られた成果を他の知的障害に係る授業に活かしたり、特別支援学校（知的障害）ボランティアや特別支援学校教育実習を行うにあたって積極的に活用したりする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>講義形式で実施する。基礎的・基本的な事柄を中心に、特別支援学校（知的障害）（一部、特別支援学級（知的障害）も含める）の教育課程及び教育指導・支援方法に関する内容を幅広く取り扱う。授業の予習復習を欠かさず行うこと。授業内容に係るレポートを課す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援学校（知的障害）の教育課程及び教育指導・支援方法を学習する意義 第2回：特別支援学校（知的障害）における幼稚部、小学部、中学部、高等部の教育活動の特徴 第3回：特別支援学校学習指導要領と知的障害教育課程 第4回：知的障害教育における各教科等 第5回：知的障害教育における自立活動 第6回：知的障害教育における各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導） 第7回：知的障害教育における各教科等を合わせた指導（生活単元学習、作業学習） 第8回：特別支援学校（知的障害）における授業デザイン：実態把握とグループ編成 第9回：特別支援学校（知的障害）における授業デザイン：教材・教具 第10回：特別支援学校（知的障害）における自閉スペクトラム症に対する指導支援の工夫 第11回：特別支援学校（知的障害）における個別の教育支援計画と個別の指導計画 第12回：特別支援学校（知的障害）における交流及び共同学習（学校間、居住地校） 第13回：特別支援学校（知的障害）におけるキャリア教育 第14回：特別支援学校（知的障害）の教育課程及び教育指導・支援方法の再整理とまとめ</p>			

定期試験：筆記試験（持ち込み不可）を実施する。

テキスト：特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部・高等部学習指導要領

参考書・参考資料等：浜田豊彦編：特別支援教育のための障害理解. 金子書房. 2022年 柏崎秀子編：通常学級で活かす特別支援教育概論. ナカニシヤ出版. 2021年. その他は授業時間中に適宜指示する。

学生に対する評価：筆記試験(持ち込み不可)(80%)、レポート課題(20%)

授業科目名：肢体不自由の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内海 友加利
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢体不自由者）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>肢体不自由児の指導に関して、肢体不自由特別支援学校での教育課程の特徴および障害特性を踏まえた教育の方法等の基礎知識の習得をねらいとする。具体的には、肢体不自由教育の今日的課題として児童生徒の障害の重度・重複化、多様化等に着目し、自立活動や個別の指導計画の理念と実践に関わる基礎理解ができることを到達目標とする。また、授業のデザイン、実施、評価・改善に係る理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、肢体不自由のある幼児・児童・生徒の指導法に関して、①肢体不自由児（主に脳性疾患）の障害特性とその指導法、②肢体不自由教育における教育課程の仕組みと授業の過程と実際、の2部から構成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>I部 肢体不自由児の障害特性とその指導法</p> <p>第1回：肢体不自由の起因疾患と分類基準</p> <p>第2回：脳性疾患の障害特性</p> <p>第3回：脳性疾患児に対する指導1（教科指導を中心に）</p> <p>第4回：脳性疾患児に対する指導2（重度・重複障害児の指導を中心に）</p> <p>第5回：肢体不自由児の障害特性と指導法に関する討議と課題整理</p> <p>II部 肢体不自由教育における授業の過程と実際</p> <p>第6回：肢体不自由特別支援学校での教育課程の特色（多様なニーズのある子どもに対するカリキュラムと授業のあり方）</p> <p>第7回：授業デザインの理解1（実態把握に基づく個別の指導計画作成）</p> <p>第8回：授業デザインの理解2（肢体不自由教育における個別の指導計画作成の現状）</p> <p>第9回：授業デザインの理解3（自立活動の指導における個別の指導計画の作成手続き）</p> <p>第10回：授業の実施とその方法1（個別指導に注目して）</p> <p>第11回：授業の実施とその方法2（ティーム・ティーチングに注目して）</p> <p>第12回：授業の評価とその改善</p> <p>第13回：授業で成長する教師</p> <p>第14回：肢体不自由児の指導に関する今後の展望</p>			

**定期試験****テキスト**

配付したプリントとパワーポイント等の視覚的教材によって授業を進める。

安藤隆男・藤田継道編著「よくわかる肢体不自由教育」ミネルヴァ書房，2015年。

**参考書・参考資料等**

小林秀之・米田宏樹・安藤隆男編著「特別支援教育—共生社会の実現に向けて—」ミネルヴァ書房，2018年。

安藤隆男編著「特別支援教育基礎論」放送大学教育振興会，2020年。

文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説自立活動編」2018年。

**学生に対する評価**

- ・平常の授業への取り組み状況(小テスト・レポート課題を含む) 40%

各部ごとに小テストまたはレポート課題を実施する。

- ・期末テスト 60%

期末テストは学習内容の理解の定着を確認するために行い、選択問題、穴埋め問題、記述問題等によって構成する。

授業科目名：病弱の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村山 拓
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>慢性疾患による長期療養の子どもや、学校生活において健康面での生活規制や運動、栄養等の配慮について理解するための科目である。支援を必要とする子どものための教育について、基本的な知識をもって、制度や実践の意義について説明したり、病弱教育の実践的課題について、適切な資料に基づいて説明、検討することができることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>慢性疾患による長期療養の子どもや、学校生活において健康面での生活規制や運動、栄養等の配慮を必要とする子どものための教育について、基本的な知識を解説する。病弱児の教育では、特別支援学校の学習指導要領や、小児疾患の基礎的な知識を踏まえ、心理社会的な支援も含めた学習の保障やその実践的特徴を取り上げる。身体疾患による肢体不自由や知的障害を併せ有する重度化、重複化、病弱教育の対象となる子どもの多様性を踏まえ、事例の検討も盛り込みながら、病弱教育の基本的な考え方と教育課程の特徴を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：病弱教育を学ぶ上での基本的な用語、概念の整理</p> <p>第2回：病弱・身体虚弱児教育の基本的定義や経緯</p> <p>第3回：学習指導要領に基づいた病弱教育の指導上の特徴</p> <p>第4回：病弱教育における対象疾患と指導の特徴</p> <p>第5回：病弱教育における指導目標と教育課程</p> <p>第6回：病弱教育の実践①（支援の枠組みの検討）</p> <p>第7回：病弱教育の実践②（各教科の指導の事例の検討）</p> <p>第8回：病弱教育の実践③（自立活動の実践の検討）</p> <p>第9回：施設内教育、訪問教育の概要と実践</p> <p>第10回：医療との連携の課題</p> <p>第11回：慢性疾患児への心理社会的支援</p> <p>第12回：慢性疾患児の家族を取りまく環境</p> <p>第13回：学校における医療的ケアの課題</p> <p>第14回：慢性疾患児／回復期の子どもにとっての学習や学校教育の意味</p> <p>定期試験</p>			

**テキスト**

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）「障害のある子供の支援の手引」（文部科学省ウェブサイトよりダウンロード可。授業の中で指示する。）

その他、受講者の学習状況等に応じて、参考書等の中から追加で指定する場合がある。

**参考書・参考資料等**

「総合的な思春期・若年成人（AYA）世代がんの対策にのあり方に関する研究」班編（2018）『AYA 世代がんサポートガイド』、金原出版

文部科学省（2018）『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』、開隆堂

文部科学省（2018）『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂

日本育療学会（2019）『標準「病弱児の教育」テキスト』、ジアース教育新社

鈴木伸一（編著）（2016）『からの病気のこころのケア』、北大路書房

全国特別支援学校病弱教育校長会（2020）『特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』、ジアース教育新社

その他、授業の中で紹介する。

**学生に対する評価**

学期末に試験ないしレポートを課す（概ね60%）。その他、小レポートや授業への参加状況（概ね40%）を加味しながら、総合的に判断する。学期末試験（あるいはレポート）の成績スコアが著しく低い場合には、他の成績評価要件が良好でも、単位取得に至らない場合がある。



授業科目名：聴覚言語 障害特論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大鹿 綾 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴覚障害者）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>聴覚障害、コミュニケーション障害のある子どもが学ぶ場所は、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常での学級等、多岐にわたる。特別支援学校と通常の学校では教育課程、学習指導要領も異なるため、それぞれについて整理して理解できるようにする。また、障害特性を理解した上でどのように発達を促すのか、指導法について学ぶことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>（聴覚）特別支援学校および、通常の学校の中での特別支援教育システムについて説明する。それぞれの学びの場において、どのようなことを目的にして、どのような指導を行っているのかについて実践例を紹介しながら説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：聴覚・コミュニケーション障害のある子どもが学ぶ場とは</p> <p>第2回：聴覚特別支援学校の教育課程</p> <p>第3回：聴覚特別支援学校の学習指導要領</p> <p>第4回：聴覚特別支援学校の自立活動</p> <p>第5回：聴覚障害児の言語発達の特徴と困難</p> <p>第6回：聴覚障害児の言語指導法（音韻・語彙）</p> <p>第7回：聴覚障害児の言語指導法（文法・談話）</p> <p>第8回：通常の学校の中での特別支援教育と教育課程</p> <p>第9回：通級による指導の現状と課題</p> <p>第10回：通級による指導の実際（構音障害）</p> <p>第11回：通級による指導の実際（吃音）</p> <p>第12回：通級による指導の実際（特異的言語発達遅滞等）</p> <p>第13回：特別支援学級・通常の学級での学び</p> <p>第14回：まとめと最終試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教員が作成した資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業時間中に適宜指示する。</p>			

学生に対する評価

授業への参加態度30%、小レポート20%、最終試験50%

授業科目名：聴覚言語障害特論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：澤 隆史 担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴覚障害者）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>今日、聴覚障害教育を巡って、新生児聴覚スクリーニングの普及、補聴機器の高性能化、人工内耳児の増加、手話使用の広がり、ICT機器の進歩など、幼児児童生徒の実態や教育環境が著しい変化を見せている。また社会の急速な変化に伴い、社会的自立に向けて求められる力も多用化しており、教員にはより専門的な指導力が求められている。本授業では、聴覚特別支援学校での教育・指導に関する現在の教育課題を理解するとともに、授業の内容と方法に関する実践的な知識と技法を習得することを目的とする。学生には、聴覚障害教育に関する基本的な理解を踏まえた上で、より高次で実践的な力量を身につけることへの意欲と関心を高めて欲しい。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚特別支援学校や通常学校に通う幼児児童生徒の現状や発達課題に関して、社会的自立やキャリア支援のあり方を中心に学修する。</li> <li>・個別の指導計画、個別の教育支援計画の策定について基本的な考え方や作成のポイントを学習するとともに、実態把握の方法を学修する。</li> <li>・聴覚特別支援学校での教科指導、自立活動の実際について、学習指導案の作成および模擬授業を通じて授業実践における実践的な知識と技法について学習する。</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションー授業内容の説明ー</p> <p>第2回：聴覚障害児・者の社会自立1：社会自立における課題</p> <p>第3回：聴覚障害児・者の社会自立2：キャリア支援のあり方</p> <p>第4回：聴覚特別支援学校の教育課程：学習指導要領での配慮事項</p> <p>第5回：聴覚特別支援学校での自立活動1：言語とコミュニケーションの課題</p> <p>第6回：聴覚特別支援学校での自立活動2：社会自立に向けての課題</p> <p>第7回：聴覚障害児への学習指導1：実態把握とアセスメント</p> <p>第8回：聴覚障害児への学習指導2：個別の支援計画と個別の教育支援計画</p> <p>第9回：聴覚障害児への学習指導3：授業における目標設定と評価</p> <p>第10回：聴覚障害児への学習指導4：授業指導案の作成</p> <p>第11回：聴覚障害児への学習指導5：教材・教具の工夫</p> <p>第12回：聴覚障害児への学習指導6：特別支援学校における授業（模擬授業実践）</p> <p>第13回：聴覚障害児への学習指導7：通級による個別指導（模擬授業実践）</p>			

**第 14 回：聴覚障害児への指導（まとめ）****テキスト**

配付したプリントとパワーポイント等の視覚的教材によって授業を進める。

**参考書・参考資料等**

●文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説——自立活動編—」●文部科学省編「聴覚障害教育の手引き」ジアース教育新社. ●立川ろう学校ろう教育研究会編「ろう学校における主体的・対話的で深い学びの実践」ジアース教育新社. ●四日市章他編「聴覚障害児の学習と指導 発達と心理学的基礎」明石書店.

**学生に対する評価**

- ・平常の授業への取り組み(確認テスト・模擬授業等を含む) 50%

毎回の授業内容の理解を確認するためにミニテストを行う。また授業において学習指導案の立案および模擬授業を実施する。

- ・期末レポート 50%

本授業における学習を踏まえ、聴覚特別支援学校および通級による難聴児指導の内容と方法に関するレポートを課す。

授業科目名：知的障害教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村尾愛美
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知的障害者）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>知的障害児を指導・支援する上で、知的障害児教育の教育課程や制度に関する知識を身につける必要があることは言うまでもない。また、近年、根拠に基づく指導が求められており、指導法に関する知識や技能も欠くことができないものである。これらのことを踏まえ、本授業では、教育的視点から、知的障害児に対する指導・支援を行う上で必要となる基礎知識を身につけることをねらいとする。特に、知的障害特別支援学校、知的障害特別支援学級に視点を当て、教育課程及び指導法を中心に学ぶ。学生には、本授業を通して、基礎的な知識の習得に加え、知的障害児に対する今後の指導・支援の在り方について考察して欲しい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず、知的障害とはどのような状態を指すのか、知的障害の定義、発達及び評価等について学ぶ。次いで、知的障害児教育の歴史について学ぶ。まず、特別支援教育以前の知的障害児教育の制度や考え方を学び、次に、現在の知的障害児教育について、特別支援学校及び特別支援学級を中心に学ぶ。さらに、知的障害児教育に特徴的な各教科等を合わせた指導、自立活動、交流及び共同学習や副籍制度について、学習指導要領の内容との関係で学ぶ。また、指導・支援上欠かすことのできない、個別の教育支援計画と個別の指導計画について学習するとともに、就学前と卒業後の指導・支援の在り方、外部専門家の利活用について学ぶ。最後に、知的障害児教育の今日的課題と今後の在り方について検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校教育において知的障害児教育が果たす役割</p> <p>第2回：知的障害とは（1）：知的障害の定義、分類</p> <p>第3回：知的障害とは（2）：知的障害の特性と発達、評価</p> <p>第4回：知的障害児教育の変遷</p> <p>第5回：現行の知的障害児教育（1）：知的障害特別支援学校の教育課程の特徴</p> <p>第6回：現行の知的障害児教育（2）：知的障害特別支援学級の教育課程と指導法</p> <p>第7回：知的障害児教育の特徴（1）：各教科等を合わせた指導</p> <p>第8回：知的障害児教育の特徴（2）：自立活動</p> <p>第9回：知的障害児教育の特徴（3）：交流及び共同学習、副籍制度</p> <p>第10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画</p>			

第 1 1 回：乳幼児期の指導と支援

第 1 2 回：卒業後の指導と支援

第 1 3 回：外部専門家の利活用

第 1 4 回：知的障害児教育における今日的課題と今後の在り方に関する検討、授業のまとめ  
定期試験

テキスト

配付資料及びパワーポイント等によって授業を進める。

参考書・参考資料等

中西 郁ら（編）（2021）知的障害教育を拓く自立活動の指導－12の事例から学ぶ「個別の指導計画」の作成と指導の展開－. ジアース教育新社.

文部科学省（2017）特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領.

文部科学省（2018）特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）.

文部科学省（2018）特別支援学校幼稚部教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）.

文部科学省（2019）特別支援学校高等部学習指導要領.

学生に対する評価

期末試験60%、授業への参加態度（発言、課題の提出状況等）20%、小レポート20%

授業科目名：肢体不自由教育特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：内海 友加利
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢体不自由者）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>肢体不自由教育の基礎的知識として、歴史・制度、教育課程の原理と編成、自立活動の指導など今日的な課題に関する理解を深めることをねらいとする。肢体不自由教育に関する理解を深めることを通して、インクルーシブ教育システム下における特別支援教育の充実に向けた考察を行うことを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、肢体不自由のある幼児・児童・生徒の学校教育に関して、①肢体不自由教育の理念・歴史・制度、②肢体不自由教育における教育課程の考え方と編成の実際、③自立活動の指導などの肢体不自由教育における今日的課題と展望の3部から構成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>I部 肢体不自由教育の理念・歴史・制度</p> <p>第1回：肢体不自由の定義と分類基準</p> <p>第2回：肢体不自由教育の歴史・制度1（肢体不自由教育の萌芽）</p> <p>第3回：肢体不自由教育の歴史・制度2（戦後の肢体不自由教育の成立）</p> <p>第4回：肢体不自由教育の歴史・制度3（養護学校の整備と義務化）</p> <p>第5回：肢体不自由教育の理念・歴史・制度に関する討議と課題整理</p> <p>II部 肢体不自由教育における教育課程の考え方と編成の実際</p> <p>第6回：特別支援学校における教育課程の原理1（教育課程の定義と関係法令の理解）</p> <p>第7回：特別支援学校における教育課程の原理2（学習指導要領改訂の変遷）</p> <p>第8回：肢体不自由特別支援学校における教育課程の実際</p> <p>第9回：通常の学校における教育課程の編成</p> <p>第10回：肢体不自由教育における教育課程の考え方と編成に関する討議と課題整理</p> <p>III部 自立活動の指導などの肢体不自由教育における今日的課題と展望</p> <p>第11回：重度・重複障害児の教育に関する今日的課題</p> <p>第12回：通常の学校における肢体不自由教育に関する今日的課題</p> <p>第13回：自立活動の指導と個別の指導計画に関する今日的課題</p> <p>第14回：教師の専門性と他職種との連携・協働に関する今日的課題</p> <p>定期試験</p>			

**テキスト**

配付したプリントとパワーポイント等の視覚的教材によって授業を進める。

安藤隆男・藤田継道編著「よくわかる肢体不自由教育」ミネルヴァ書房，2015年。

**参考書・参考資料等**

小林秀之・米田宏樹・安藤隆男編著「特別支援教育—共生社会の実現に向けて—」ミネルヴァ書房，2018年。

安藤隆男編著「特別支援教育基礎論」放送大学教育振興会，2020年。

文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」2017年。

**学生に対する評価**

- ・平常の授業への取り組み状況(小テスト・レポート課題を含む) 40%

各部における小テストまたはレポート課題を実施する。

- ・期末テスト 60%

期末テストは学習内容の理解の定着を確認するために行い、選択問題、穴埋め問題、記述問題等によって構成する。



授業科目名：病弱教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村山 拓
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>慢性疾患による長期療養の子どもの、学校生活における心身面の課題に注目して、その実践の特徴や課題、支援や配慮の内容について理解を深めるための科目である。支援を必要とする子どものための学習や学校生活、治療環境の変化等に応じた支援の内容や課題を理解し、慢性疾患児に対する心理的支援や学習支援の具体的な課題について、適切なデータや資料に基づいて説明したり、具体的な学習や支援の方法を検討することができるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>慢性疾患による長期療養の子どもや、学校生活において健康面での生活規制や運動、栄養等の配慮を必要とする子どものための教育について解説する。特別支援学校の学習指導要領や、小児疾患の基礎的な知識を踏まえ、心理社会的な支援も含めた学習の保障やその実践的特徴を理解すること、身体疾患を有する子どもの心理的な、精神疾患や心身症による対象児の増加も考慮し、授業デザインや支援の枠組み、教育課程編成や自立活動の実践について検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：病弱教育を学ぶ上での用語、概念の確認</p> <p>第2回：病弱・身体虚弱児教育の制度や支援体制</p> <p>第3回：慢性疾患児の発達特性に応じた指導や支援</p> <p>第4回：精神疾患を有する子どもの認知発達</p> <p>第5回：精神疾患を有する子どもの情緒発達</p> <p>第6回：精神疾患を有する子どもの自立活動の特徴</p> <p>第7回：心身症の子どもの理解</p> <p>第8回：心身症への対応や指導事例</p> <p>第9回：生物・心理・社会モデルに基づく子ども理解</p> <p>第10回：生物・心理・社会モデルに基づく支援内容</p> <p>第11回：精神科医療、小児医療との連携</p> <p>第12回：学校における医療的ケアや学校保健の役割</p> <p>第13回：慢性疾患児への対応における倫理的課題</p> <p>第14回：子どもの生活環境と心身の健康</p>			

定期試験
------

テキスト
------

<p>文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）「障害のある子供の支援の手引」（文部科学省ウェブサイトよりダウンロード可。授業の中で指示する。）</p>
--

<p>その他、受講者の学習状況等に応じて、参考書等の中から追加で指定する場合がある。</p>
--

参考書・参考資料等
-----------

<p>文部科学省（2018）『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』、開隆堂</p>
---

<p>文部科学省（2018）『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂</p>
---

<p>日本小児心身医学会（2015）『小児心身医学会ガイドライン集』、南江堂</p>
--

<p>大谷彰（2019）『マインドフルネス実践講義』、金剛出版</p>
-------------------------------------

<p>S.W.ポージェス（著）／花丘ちぐさ（訳）（2018）『ポリヴェーガル理論入門』、春秋社</p>
---

<p>滝川一廣（2017）『子どものための精神医学』、医学書院</p>
-------------------------------------

<p>津田真人（2019）『「ポリヴェーガル理論」を読む』、星和書店</p>
--

<p>全国特別支援学校病弱教育校長会（2020）『特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』、ジアース教育新社</p>
---

<p>その他、授業の中で紹介する。</p>
-----------------------

学生に対する評価
----------

<p>学期末に試験ないしレポートを課す（概ね60%）。その他、小レポートや授業への参加状況（概ね40%）を加味しながら、総合的に判断する。学期末試験（あるいはレポート）の成績が著しく低い場合には、他の成績評価要件が良好でも、単位取得に至らない場合がある。</p>
---

授業科目名：発達障害 教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野 博 担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：重複・LD等領域)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>発達障害のある児童生徒にとってコミュニケーションと社会性の問題は自立における重要な課題である。本授業は、発達障害のある児童生徒のコミュニケーションと社会性の問題とその指導・支援に関する理解を深めることをねらいとする。</p> <p>この授業を通じ、コミュニケーションと社会性の問題について様々な角度から検討し、指導・支援の計画を立案できるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>発達障害におけるコミュニケーションと社会性の問題について概説し、通級による指導における教育課程について解説する。とくに自立活動の区分「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」に焦点を当てる。そして、コミュニケーションと社会性に関するアセスメントと指導・支援の方法について紹介する。それらをふまえ、個別の指導計画の立案の演習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達障害におけるコミュニケーションと社会性の問題</p> <p>第2回：発達障害のある児童生徒に対する通級による指導と教育課程</p> <p>第3回：自立活動の区分「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」</p> <p>第4回：コミュニケーションのアセスメント</p> <p>第5回：社会性と適応行動のアセスメント</p> <p>第6回：行動統制の指導・支援</p> <p>第7回：日常生活スキルの指導・支援</p> <p>第8回：ソーシャルスキルの指導・支援</p> <p>第9回：社会的状況理解の指導・支援</p> <p>第10回：情動調整の指導・支援</p> <p>第11回：自尊感情とレジリエンスの支援</p> <p>第12回：余暇活動と生活の質（QOL）の向上のための支援</p> <p>第13回：ピアサポートと保護者支援</p> <p>第14回：個別の指導計画の立案</p>			

定期試験
テキスト 特に指定しない。
参考書・参考資料等 藤野 博（編著）「発達障害のある子の社会性とコミュニケーションの支援」金子書房
学生に対する評価 期末テスト50%、授業への参加態度（発言、課題の提出状況を含む）30%、小レポート20%

授業科目名：重複障害教育総論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：池田吉史 担当形態：単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：重複・LD等領域）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援学校や特別支援学級に在籍する重度・重複障害児の心理・生理・病理及び教育課程・指導法に関する基礎的知識を習得することをテーマとする。具体的には、重度・重複障害の概念、発生機序、心理学的特性、教育課程、支援の在り方を理解することを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援学校や特別支援学級に在籍する重度・重複障害のある児童生徒の理解と支援について、基本的な知識を講義する。重度・重複障害の定義・分類・アセスメント、重度・重複障害の発生に関わる生理・病理、神経系の構造と機能、心身の発達、教育課程・指導法等を理解した上で、障害特性に応じた教育的支援の在り方について理解することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：重度・重複障害の定義・概念・分類</p> <p>第2回：重度・重複障害の発生要因</p> <p>第3回：重度・重複障害の二次障害</p> <p>第4回：重度・重複障害の視覚のアセスメントと支援</p> <p>第5回：重度・重複障害の聴覚のアセスメントと支援</p> <p>第6回：重度・重複障害の身体運動：アセスメント</p> <p>第7回：重度・重複障害の身体運動：支援</p> <p>第8回：重度・重複障害の生理反応</p> <p>第9回：重度・重複障害のコミュニケーション：アセスメント</p> <p>第10回：重度・重複障害のコミュニケーション：支援</p> <p>第11回：重度・重複障害の特別な教育課程と訪問教育</p> <p>第12回：重度・重複障害の指導法：日常生活動作</p> <p>第13回：重度・重複障害の指導法：医療的ケア</p> <p>第14回：重度・重複障害の自立と社会参加</p>			
定期試験			
<p>テキスト</p> <p>・特別支援学校幼稚部教育要領（平成29年4月 文部科学省）</p>			

- ・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月 文部科学省）
- ・特別支援学校高等部学習指導要領（平成 31 年 4 月 文部科学省）

#### 参考書・参考資料等

- ・樋口和彦（2021）重度・重複障害児の学習とは？－障害が重い子どもが主体的・対話的で深い学びを行うための基礎．ジアース教育新社．
- ・大城昌平・儀間裕貴（2018）子どもの感覚運動機能の発達と支援．メジカルビュー社．
- ・坂口しおり（2019）障害の重い子どもの評価と支援－コミュニケーション支援の実践から．ジダイ社．

#### 学生に対する評価

積極的な授業参加度（20%）、レポート課題の記載内容（20%）、期末試験（60%）を個別に評定し、総合的に判断して評価する。

授業科目名：言語・情緒・発達障害教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野 博
			担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目</li> <li>・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</li> </ul> (中心領域：重複、LD等領域)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>通級指導の対象となる言語障害、情緒障害、発達障害の教育について基本的な知識を習得することをねらいとする。</p> <p>この授業を通じ、言語障害、情緒障害、発達障害の特徴と指導・支援の方法を理解し、教育課程、教育内容、教育方法について基本的な事項を説明できるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>様々な種類の言語障害、情緒障害、発達障害の心理、生理、及び病理と指導・支援の方法について概説し、通級による指導、通常の学級、特別支援学級での配慮・支援について具体的な内容と形態および教育課程について説明する。また、発達の多様性という最近の考え方について紹介し、インクルーシブ教育システムとの関連を論じる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：言語・情緒・発達の障害と教育</p> <p>第2回：言語障害の心理・生理・病理と指導法（1）言語発達障害</p> <p>第3回：言語障害の心理・生理・病理と指導法（2）構音障害</p> <p>第4回：言語障害の心理・生理・病理と指導法（3）吃音</p> <p>第5回：発達障害の心理・生理・病理と指導法（1）学習障害（LD）</p> <p>第6回：発達障害の心理・生理・病理と指導法（2）注意欠如多動症（ADHD）</p> <p>第7回：発達障害の心理・生理・病理と指導法（3）自閉スペクトラム症（ASD）</p> <p>第8回：発達障害の心理・生理・病理と指導法（4）チックとトゥレット症候群</p> <p>第9回：情緒障害の心理・生理・病理と指導法（1）選択性緘黙</p> <p>第10回：情緒障害の心理・生理・病理と指導法（2）精神的健康の問題</p> <p>第11回：言語・情緒・発達障害のある児童生徒の教育課程（1）通常の学級</p> <p>第12回：言語・情緒・発達障害のある児童生徒の教育課程（2）通級による指導</p> <p>第13回：言語・情緒・発達障害のある児童生徒の教育課程（3）特別支援学級</p>			

第 1 4 回：発達の多様性とインクルーシブ教育システム

定期試験

テキスト

東京学芸大学特別支援科学講座（編）「特別支援教育のための障害理解」（金子書房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

期末テスト50%、授業への参加態度（発言、課題の提出状況を含む）30%、小レポート20%



授業科目名：視覚障害 教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 巖
			担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目</li> <li>・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</li> </ul> (中心領域：視覚障害者)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>視覚障害児を対象とした教育は、国内の障害児教育の中でも長い歴史のある分野である。本授業では、教育的評価や教育的支援の方法を中心に視覚障害教育の分野で蓄積されてきた内容を学び、理解を深めることを目的とする。</p> <p>この授業科目の履修を通じて、以下の説明ができるようになることを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害教育の歴史的経緯を踏まえるとともに、この分野の最新状況や課題について理解し、説明することができる。</li> <li>2. 視覚障害の定義、視覚障害児の心理・行動特性について把握し、説明することができる。</li> <li>3. 視覚障害教育における教育課程を踏まえるとともに、教育支援の方法や評価手法について理解し、説明することができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>視覚障害教育に関する理解を深めるため、視聴覚教材や実際に教育現場で用いられている教材等を活用し講義を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本授業の目的と方法—教職課程における本授業の位置付け</p> <p>第2回：視覚障害とは</p> <p>第3回：視覚障害に関する教育制度および教育課程</p> <p>第4回：盲児の教育と教育支援（1）：心理・行動特性</p> <p>第5回：盲児の教育と教育支援（2）：点字指導等</p> <p>第6回：盲児の教育と教育支援（3）：触覚教材等</p> <p>第7回：盲児の教育と教育支援（4）：歩行指導等</p> <p>第8回：盲児の教育と教育支援（5）：その他の自立活動・教材教具</p> <p>第9回：弱視児の教育と教育支援（1）：弱視の定義</p>			

第10回：弱視児の教育と教育支援（2）：心理・行動特性

第11回：弱視児の教育と教育支援（3）：教育的支援（主に外的条件）

第12回：弱視児の教育と教育支援（4）：教育的支援（主に内的条件）

第13回：視覚の障害や困難を有する重複障害等に対する教育支援

第14回：授業の総括と期末試験

テキスト

授業時間中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

- ・香川邦生編著（2016）五訂版 視覚障害教育に携わる方のために．慶應義塾大学出版会．
- ・全国盲学校長会編著（2018）新訂版 視覚障害教育入門Q&A．ジアース教育新社．
- ・猪平眞理編著（2018）視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える．慶應義塾大学出版会．
- ・青柳まゆみ他編著（2020）新・視覚障害教育入門．ジアース教育新社．

（その他、授業時間中に適時追加する。）

学生に対する評価

期末試験または最終レポート（60%）、授業への参加態度（40%）を個別に評定し、総合的に判断して評価する。